

年報

津山 弥生の里

第 17 号 (平成 20 年度)

2010

津山弥生の里文化財センター

序

一昨年の機構改革により、文化財センター内に文化財課が新設されました。当初、教育委員会事務局から離れたこともあり多少の混乱もありましたが、今年度はそれもなくほぼ順調に文化財保護行政が遂行できたものと思っています。

今年度の特筆事項としては、美作国分寺跡の追加指定、沼遺跡復元住居の全面改築があげられます。

美作国分寺跡は、平成 16 年に国の史跡指定を受けましたが、予定地全域ではなく宅地を含む一部分を残しての指定がありました。しかし、この未指定部分も地権者の皆さんのご協力により、昨年の 7 月に正式に追加指定されました。これにより、美作国分寺跡は主要伽藍を含むほぼ全域が保存されることになりました。

沼遺跡の復元住居は、前回の屋根葺き替えから 17 年余りが経過し、かなり老朽化が進んでいました。また、これまでの復元住居は、遺構が半分しか遺存していない住居址の推定復元であったため、構造的な問題も指摘されていました。そこで、今回の屋根の葺き替えにあたっては、やや小ぶりではありますが竪穴遺構が全て残っている住居を参考に復元しました。

復元に当たっては、快く設計を引き受けさせていただきました広島大学名誉教授鈴木充先生、復元工事経費の一部を負担していただいた津山やよいライオンズクラブ様には、大変お世話になりました。記して厚くお礼申し上げます。

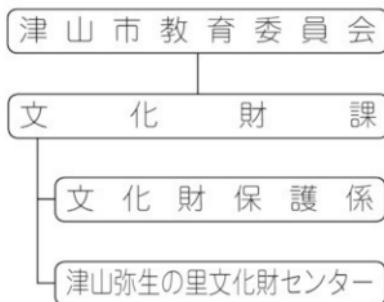
文化財保護行政というものは、決して派手なものではありません。また、市民生活に直結するようなものでもありません。細々とでも長く継続性をもって推進していくことが大切なことだと思います。今後とも市民の皆さんからご意見をお寄せいただき、市民との協働で文化財保護の取り組みができたらと願ってあいさつとさせていただきます。

平成 22 年 3 月 31 日

津山弥生の里文化財センター

所 長 行 田 裕 美

平成 20 年度機構図及び職員配置



課長 中山 俊紀（文化財センター所長兼務）

参事（文化財保護係長）

行田 裕美（同次長兼務）

主査 小郷 利幸（同主査兼務）

主任 仁木 康治（同主任兼務）

主任 平岡 正宏（同主任兼務）

主任 乾 康二（同主任兼務）

嘱託員 野上 恵子

タ 岩本えり子

タ 田渕千香子

例　　言

- 本書は、津山市教育委員会・津山弥生の里文化財センターが平成 20 年度に実施した事業概要などについてまとめたものである。なお、平成 20 年度から機構改革で、同センター内に文化財課が置かれ、文化財保護と埋蔵文化財の 2 係り体制となった。よって、本号から両部門の事業概要を掲載する。
- 平成 20 年度の埋蔵文化財発掘調査は、小郷利幸、仁木康治、平岡正宏、出土遺物の整理は上記の他、野上恵子、岩本えり子、田渕千香子、指定文化財の保存管理は、乾 康二が主として担当した。本書の執筆は各担当者が行い編集は平岡がおこなった。
- 本書のデータは、PDF フォーマットで保管している。

目 次

序 i

機構図及び職員配置 ii

例言 ii

第Ⅰ部 津山弥生の里文化財センター事業概要	1
I - A 展示事業	3
I - A - 1 入館者数	3
I - A - 2 啓発・普及活動	3
I - A - 3 寄贈資料	4
I - B 文化財センター日誌抄（平成20年度）	4
I - C 埋蔵文化財発掘調査	6
I - C - 1 平成20年度届出関係一覧	6
I - C - 2 現地説明会	7
第Ⅱ部 調査の概要	7
II - A 市内遺跡試掘・確認調査報告	9
II - A - 1 院庄構城跡確認調査	9
II - A - 2 旧津山藩別邸庭園（衆楽園）確認調査	13
II - A - 3 各種開発に伴う試掘・確認調査（津山城跡）	17
第Ⅲ部 文化財の保護・管理	19
III - A 文化財の保護	21
III - A - 1 文化財保護委員会	21
III - A - 2 新指定の文化財	21
III - A - 3 文化財防火訓練	22
III - B 指定文化財の保存管理	22
III - B - 1 国指定文化財	22
III - B - 2 県指定文化財	22
III - B - 3 市指定文化財	22
III - B - 4 その他の文化財	23
III - C 歴史民俗資料館の管理運営	23
III - C - 1 加茂町歴史民俗資料館	23
III - C - 2 勝北歴史民俗資料館	23
III - C - 3 久米歴史民俗資料館	23
III - C - 4 阿波民具館	23
第Ⅳ部 資料紹介・研究ノート	25
IV - A 津山城天守指図に見える柱傾斜についての考察	27
IV - B 美作の狛犬（1）津山市	35
IV - C コロビ山の開発～安黒一枝の日記から（2）～	42

第Ⅰ部
津山弥生の里文化財
センター事業概要

A. 津山弥生の里文化財センター展示事業

1. 入館者数

昨年度の入館者数は下表のとおりである。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
大 人	142	197	98	62	108	94	108	56	32	50	54	85	1,086
学 生	125	324	40	19	58	16	139	70	3	127	55	48	1,024
合 計	267	521	138	81	166	110	247	126	35	177	109	133	2,110

表1 平成20年度総利用者数内訳

2. 啓発、普及活動

【刊行物】

『年報 津山弥生の里 第16号』

『大蔵池南2号鉄穴流し遺構・二つ塚1号墳』

(津山市埋蔵文化財発掘調査報告第79集)

【講演会・研究会】

第27回津山市文化財調査報告会（参加者50名）

日 時 平成20年12月20日（土）

場 所 グリーンヒルズ津山 リージョンセンター

内 容

講演1

「近年の津山市指定文化財（彫刻）の

修復事例について」

岡山県立博物館 中田利枝子先生

講演2

「豊臣秀吉の築城遺跡“韓国の倭城”」

大阪市文化財協会 黒田慶一先生



美作考古学談話会（会員30名）

第1回5/24（土）

「美作の郡衙遺跡について」（仁木康治）

第2回7/5（土）

「酒に関するあれこれ」（乾 康二）

第3回9/6（土）

「遺物の胎土分析からわかること」（小郷利幸）

第4回11/15（土）

「中山神社を歩く」（行田裕美）

第5回1/31（土）

「津山城とその縄張り」（平岡正宏）

第6回3/8（土）

「考古学からみた「美作」のなりたち」（中山俊紀）

【速報展】

発掘調査速報展

『津山の歴史を掘る－日上歟山古墳群特集－』

須恵器（杯・高杯・甕・壺・提瓶・台付壺・器台ほか）

土師器（甕・甕・高杯・鉢）

円筒埴輪、形象埴輪（馬・人物・家・鶏・石見型盾）

石器（ナイフ形石器・槍先形尖頭器・剥片・砥石）

鉄器（鉄鏃・刀）

【収蔵資料の貸し出し・調査等】

【考古資料】

○奈良文化財研究所和田一之輔さん長歟山2号墳の埴輪の資料調査（5月）

○大賀克彦さん六ツ塚1号墳ほかの勾玉・管玉等の資料調査（9月）

○鏡野町史通史編に使用のため、曾根田遺跡溝1断面の写真を貸し出す。（9月）

○広島大学宮岡昌宣さん芦ヶ谷古墳ほかの陶棺の資料調査（9月）

○広島大学山手貴生さん稻荷遺跡の有茎尖頭器の資料調査。（9月）

○岡山県立吉備路郷土館平成20年度企画展「見えはじめた備中の国府」展示のため、美作国府跡の須恵器ほかを貸し出す（10月）

○雄山閣『季刊考古学第106号』掲載のため、日上天王山古墳の写真掲載許可（写真は寿福 滋撮影）（11

B. 文化財センター日誌抄（平成20年度）

月)

- ◎鳥取県埋蔵文化財センター湯村 功さん有元遺跡はかの石器の資料調査（2月）
- ◎京都府立大学篠栗 拓さん万燈山古墳の須恵器はかの資料調査（3月）
- ◎くらしき作陽大学澤田秀実さん殿田古墳はかの銅椀はか資料調査（3月）

【民俗資料】

- ◎岡山県立記録資料館平成20年度企画展展示のため姫新線全線記念産業振興大博覧会記念絵葉書を貸し出す（9月）
- ◎国政 薫さんに糸車を貸し出す（12月）
- ◎仁木祐介さんにせんたく板を貸し出す（1月）

3. 寄贈資料

下記の方から資料の寄贈がありました。寄贈いただいた資料は文化財センター資料として保存活用させていただきます。（敬称略）

【考古資料】

河内道夫（横浜市磯子区） 鬼瓦（美作国分尼寺跡出土）

1点

【民俗資料】

眞木正夫（津山市綾部） 発動機 1点



- 4月9日 集合住宅建設に伴う津山城跡確認調査（～11、小郷・平岡）
- 4月10日 障害者に史跡津山城跡を開放するための登城路警備
- 4月23日 工業用水道施設建設に伴う二塚1号墳発掘調査（～6月3日、小郷）
- 5月24日 第1回美作考古学談話会の開催（仁木）
- 5月30日 奈良文化財研究所和田一之輔さん埴輪（長畠山2号墳）の調査
- 6月4日 鶴山中学校チャレンジワーク（～6日）
- 6月11日 中道中学校チャレンジワーク（～13日）
- 6月15日 日上町内会による日上歎山古墳群草刈
- 7月1日 園場整備に伴う下石屋遺跡発掘調査の開始（～9月4日、小郷）
- 7月5日 第2回美作考古学談話会の開催（乾）
- 8月6日 津山やよいライオンズクラブによる沼弥生住居址群草刈
- 8月23日 史跡津山城跡確認調査現地説明会
- 8月24日 史跡美作国分寺跡関係者説明会
- 8月26日 岡山県史跡整備市町村協議会総会出席のため真庭市に出張（中山・乾）
- 8月31日 日上町内会による日上歎山古墳群草刈
- 9月4日 全国公立埋蔵文化財文化財センター連絡協議会中国・四国・九州ブロック会議出席のため倉敷市に出張（行田、～5日）
- 9月6日 第3回美作考古学談話会の開催（小郷）
- 9月11日 史跡美作国分寺跡草刈（～12日）
- 10月2日 沼遺跡高床倉庫復元工事開始
- 10月4日 中山神社本殿保存修理現地説明会（～5日）
- 10月8日 第1回津山市文化財保護委員会開催、沼弥生住居址群高床倉庫復元工事材料検査（鈴木充先生）

- 10月15日 院庄構城跡確認調査開始（～11月21日、小郷）
- 10月30日 岡山県文化財課光永総括副参事院庄構城跡の確認調査を視察
- 11月15日 第4回美作考古学談話会の開催（行田）
- 11月16日 院庄構城跡確認調査現地説明会
- 11月20日 中道中学校郊外学習
- 11月22日 岡山県文化財保護協会中山神社本殿保存修理現場を視察
- 11月28日 岡山県史跡整備市町村協議会研修会を津山市で開催
- 12月1日 沼弥生住居址群高床倉庫復元工事屋根葺き指導（鈴木先生）
- 12月11日 岡山県文化財保護審議会黒田委員、県文化財課田村参事本源寺調査
- 12月20日 第27回津山市文化財調査報告会開催
- 1月9日 沼弥生住居址群高床倉庫復元工事最終検査（鈴木先生）
- 1月20日 煙硝蔵跡の木を伐採
- 1月31日 第5回美作考古学談話会の開催（平岡）
- 2月6日 河本清さん陶棺の調査
- 2月17日 平成21年度国庫補助事業申請書を岡山県教育委員会に提出
- 2月20日 文化庁委託事業の民俗技術調査（横野の活合紙・作州錦）
- 2月21日 同（津山ねり天神）
- 2月24日 衆楽園確認調査（～3月27日、仁木）
- 2月27日 第2回津山市文化財保護委員会開催
- 3月7日 第6回美作考古学談話会の開催（中山）
- 3月8日 史跡美作国分寺跡関係者説明会
- 3月17日 県文化財課光永総括副参事衆楽園の確認調査を視察
- 3月19日 史跡津山城整備委員会開催
- 3月21日 中山神社本殿保存修理現地説明会（～22日）
- 3月29日 日上町内会による日上歓山古墳群草刈・雑木の撤去



C. 埋蔵文化財発掘調査

1. 平成20年度届出関係一覧

埋蔵文化財発掘の届出（法第93条）

遺跡名	所在地	工事種別	期間	面積 (m ²)	津山市発番	発伝日	表示事項	実施日	備考
美作国府跡	総社 23-11	個人住宅	未定	269.28	津教委文第 21 号	4.10	立会	5.12	遺構・遺物無し
年末廬址	宮部下 1,908-2 ほか	説明板の設置ほか	4.1.5 ~ 4.19	6,737	津教委文第 31 号	4.14	立会	4.15	遺構・遺物無し
京免遺跡	沼 7-13	個人住宅	未定	220.69	津教委文第 33 号	4.15	立会	6.9	遺構・遺物無し
田熊矢谷口遺跡	田熊 276-1 ほか	個人住宅	未定	355	津教委文第 77 号	5.2	立会	5.27 5.28	遺構・遺物無し
野村沖田遺跡	野村 425-1	宅地造成	未定	1,250	津教委文第 107 号	6.3	立会	6.2	事後確認
中原遺跡	中原 435-1 ほか	個人住宅	9.1 ~ 3.1	499	津教委文第 134 号	6.25	立会	12.8	遺構・遺物無し
美作国府跡	総社 18-8	個人住宅	未定	185.01	津教委文第 143 号	6.30	立会	8.5	遺構・遺物無し
津山城跡	山下 42-2	店舗・個人住宅	未定	240.45	津教委文第 149 号	7.7	立会	7.24	遺構・遺物無し
林田池 / 内遺跡	林田 802-2	駐車場・幸運	未定	254	津教委文第 165 号	7.22	立会	8.25	遺構・遺物無し
まいまい塚 1号墳	河辺 457-2	墓地参道補修	未定	55.1	津教委文第 168 号	7.25	立会	7.22	遺構・遺物無し
美作国分寺跡	日上 153-3 ほか	個人住宅	未定	610.84	津教委文第 215 号	9.12	立会	10.13	遺構・遺物無し
中原遺跡	中原 57-3 ほか	個人住宅	2.20 ~ 6.20	269.86	津教委文第 378 号	12.15	立会	3.5 5.18	遺構・遺物無し
野村沖田遺跡	野村 425-3	個人住宅	1 ~ 3	230.29	津教委文第 421 号	1.13	立会	1.22 3.12	遺構・遺物無し
野村沖田遺跡	野村 425-10	個人住宅	2 ~ 7.5	175.96	津教委文第 440 号	1.28	立会	2.3 2.16	遺構・遺物無し
福田湯田遺跡	福田 1,233 ほか	宅地造成	5.1 ~	1,070	津教委文第 493 号	3.5	立会	5.18	遺構・遺物無し
勝部国分寺跡	勝部 522-18 ほか	宅地造成	5.1 ~ 5.31	488.89	津教委文第 497 号	3.6	立会	事後確認	遺構・遺物無し
美作国府跡	山北 36-2	集合住宅	6.1 ~ 9.25	626.32	津教委文第 508 号	3.9	立会	8.28	遺構・遺物無し
年末廬址	宮部下 1,908-2	社の建設	未定	4,070	津教委文第 565 号	3.27	立会	4.13	遺構・遺物無し
津山城跡	大手町 3-4	事務所建設	未定	434.98	津教委文第 568 号	3.27	立会	5.19	遺構・遺物無し

埋蔵文化財発掘の届出（法第94条）

遺跡名	所在地	工事種別	期間	届出者	津山市発番	発伝日	表示事項	実施日	備考
下石屋遺跡	宮部上 32 ほか	農業基盤整備	6.1 ~ 1.2	津山市山下 53 吉岡昭昭	津教委文第 85 号	5.14	発掘調査	2.1 ~ 3.4 住居跡、建物跡など	

埋蔵文化財発掘調査の報告（法第99条）

遺跡名	所在地	遺跡種別	調査期間	面積 (m ²)・原因	津山市発番	発伝日	調査担当	備考
二つ塚1号墳	くめ 50-13	古墳	4.22 ~ 6.3	143・ 工業用水施設	津教委文第 56 号	4.24	小郷利幸	津市埋蔵文化財発掘 調査報告第 79 集
下石屋遺跡	宮部上 32	集落	7.1 ~ 9.4	1,160・ 農業基盤整備	津教委文第 158 号	7.15	小郷利幸	津市埋蔵文化財発掘 調査報告第 81 集
院庄構城跡	院庄 557 ほか	城跡	10.9 ~ 11.21	68・遺跡整備	津教委文第 252 号	10.17	小郷利幸	本書参照
衆楽園	山北 629-5	庭園	2.24 ~ 3.27	70・遺跡整備	津教委文第 486 号	2.24	仁木康治	本書参照

埋蔵文化財試掘・確認調査の報告

機種及び遺跡名	周知・未周知	所在地	調査期間	面積 (m ²)・原因	津山市発番	発伝日	調査担当	備考
津山城跡	周知	山下 100 ほか	4.9 ~ 4.11	18.6・集合住宅建設・有	津教委文第 524 号	3.18	小郷利幸・平岡正宏	本書 参照

2. 現地説明会

・史跡津山城跡

平成20年8月23日（土）約20名

・院庄構城跡（地元町内会を中心とした説明会）

平成20年11月16日（日）約30名

第Ⅱ部
調査の概要

A. 市内遺跡試掘・確認調査報告（平成 20 年度）

津山市が平成 20 年度に国庫補助事業（市内遺跡発掘調査等）でおこなった事業についての概要報告である。調査は、保存に伴う確認調査（院庄構城跡、衆楽園）、民間の開発に伴う確認調査（津山城跡）の 3 件である。

（1）院庄構城跡確認調査

- a. 調査地 津山市院庄 557 番地 外
- b. 調査期間 平成 20 年 10 月 9 日～
平成 20 年 11 月 21 日
- c. 調査面積 約 68m²
- d. 調査の概要

院庄構城跡は、院庄館跡（国指定史跡）の南 500 m にある中世の平城である。構城跡の築城時期は明確ではないが、「作陽誌」には太平記を引用しその中に「院庄城」という記述があり、これが構城の事とされていて、太平記の項（14 世紀後半頃）には築城されていた可能性も考えられる。その後、慶長 8（1603）年に森忠政が入国際この城跡を修築しようとしたが、結局修築は断念し鶴山に城を築いた。文化 6（1809）年につくられた「森家先代実録」には、構城について本丸 50 間（約 100 m）四方、東西南北に堀がめぐる記述があるが、その堀は寛永 15（1638）年頃には埋められ田になったようで、本丸の一部も大正時代の姫新線建設等の際に削平されていて、正確な城の範囲が確定されていないのが現状である。

このため、現在埋められている堀の位置を確認し、



第 1 図 調査位置図 (S = 1 : 50,000)

城跡の正確な範囲を特定することを目的として、昨年度から確認調査を実施している。

昨年度は、北・東・西堀を検出するためにトレーンチを入れたが、北堀の一部のみを確認する事ができた。今年度は昨年度検出できなかった東堀と南堀の位置を確認する事と、本丸部分に造構が存在するのかを目的に調査をおこなった。調査は幅 1 ~ 1.5 m 程の試掘溝（トレーンチ）を 4 箇所設定した。調査面積は約 68m² である。調査期間は平成 20 年 10 月 9 日から 11 月 21 日で、11 月 16 日には現地説明会を開催した。

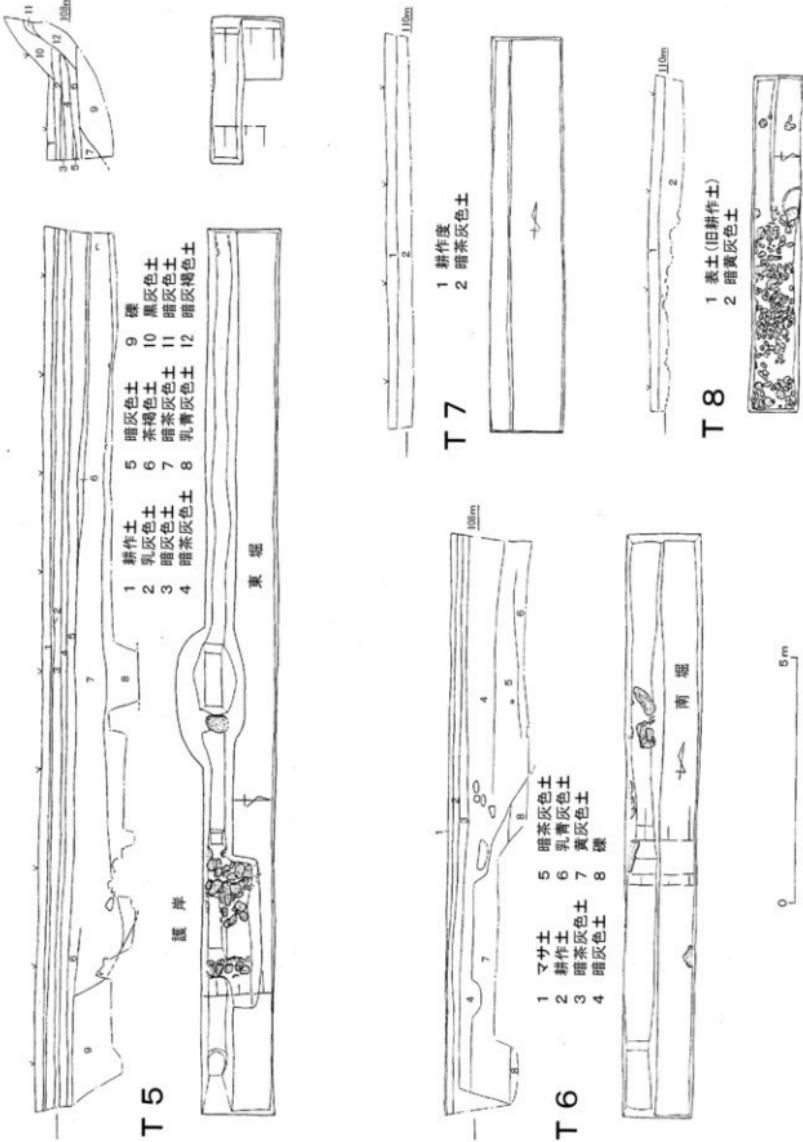
城の堀の位置を確認するために、試掘溝（トレーンチ）を 2 箇所、本丸部分に 2 箇所設定した。

トレーンチ 5 (T5)

幅 1.5 m、長さ約 21 m のトレーンチで、東堀を検出するために設定した。その結果、耕作土等の下は礫層が見られ、この礫層を切る掘り込みを確認した。特に、東側ではこの掘り込みの法面に河原石が数段積まれていて、これはおそらく堀の護岸と思われる。これら石の最下段付近から下の層は粘土質のもので、木片など



第 2 図 確認調査トレーンチ配置図 (S = 1 : 3,000)



第3図 平成20年度トレンチ平・断面図 (S=1:100)

が出土している。おそらくこの土層は、堀の水が溜まっていた跡でないかと思われる。検出された堀の幅は約17.7m、深さは約1.3mを測る。ちなみに文献では東堀の幅は9間（約18m）とあり、ほぼ数値が符号する。またトレンチ西側では本丸部分も一部掘り下げた。その結果、基盤となる砂礫層の高台が瓦々あり、この上に疊を含む盛土をおこなっている事が判明した。

トレンチ6（T6）

幅1.5m、長さ約11.8mのトレンチで、南堀を検出するために設定した。その結果、中央付近で下層の砂礫層を切る掘り込みが検出された。おそらく、南堀の端と思われる。確認された堀の長さ約7m、深さは全掘していないが1m以上はある。この落込み部分の法面側にはかなり大きな石が複数見られ、これら石はもともと護岸に使用されていた可能性もあるが、出土状況や埋土から瓦が出土する事から、堀が埋められる際に廃棄されたものと思われる。ちなみにこの南堀の幅は、文献では12間（約24m）とあり、今回の堀の端から推測すると、南堀の幅は文献よりも少し狭くなる可能性がある。

トレンチ7（T7）

幅1.5m、長さ約8mのトレンチで、本丸部分の北側に設定した。その結果、耕作土の下から建物の遺構などは発見されていない。一部分掘り下げた結果、この本丸がトレンチ5で確認したように、礫や砂の層の盛土で造られていることが判明した。

トレンチ8（T8）

幅1m、長さ約6.8mで、本丸部分の南側に設定した。その結果、表土の下から河原石が広範囲に出土した。石のレベルは西から東に向かってやや下がっているようです。石の検出時に瓦や陶器片が出土しているため、新しい時期の可能性があるが、明瞭な遺構の性格は不明である。

e.まとめ

今回の調査では、トレンチ5で東堀を検出した。東堀の外側斜面には河原石を数段積んだ遺構があり、これは護岸と思われる。また、トレンチ6では南堀の一部を検出する事ができた。南堀に東堀同様の護岸があるかは現状では明瞭でない。昨年度の調査で北堀を検出しているので、西堀の検出はできていないが、これまでの調査結果を総合すると、城跡の大まかな範囲が

確認できたと思われる。

また、天明2（1782）年の院庄地方絵図（現物は143年後の写）には長方形に近い本丸跡が描かかれている。この絵図とこれまでの調査結果を比べると、東堀の位置は良く似ている。南堀については家が描かれているため明瞭ではないが、今回の調査結果から現在の出雲街道の北側に南堀があった事になる。

本丸については、トレンチ7では遺構は見られず、トレンチ8では石が出土しているが、これも建物に関するものではないようである。いずれにしてもまだ不明な部分が存在するので、今後の調査結果が期待される。

（小郷利幸）



遠景（東から）



トレンチ5（東から）



トレンチ5護岸部分



トレンチ6（南から）



トレンチ7（南から）



トレンチ8（東から）



作業風景



作業風景

(2) 旧津山藩別邸庭園（衆楽園）確認調査

- a. 調査地 津山市山北629-5番地
- b. 調査期間 平成21年2月24日～
平成21年3月27日
- c. 調査面積 約70m²
- d. 調査の概要



第1図 遺跡位置図 (S = 1 : 25,000)

旧津山藩別邸庭園（衆楽園）は、平成14年9月に国の名勝に指定された。その後、庭園についての基礎資料を得るために、平成15年度から確認調査を実施し、平成17年度には庭園の将来的な保存のための基本方針である「名勝旧津山藩別邸庭園（衆楽園）保存管理計画」を策定した。これまでの調査成果としては、庭園内に造られた「御対面所」御殿の礎石、庭園の周囲を巡っていた「大溝」の遺構の一部、および西御殿の建物の雨落溝や建物礎石、「曲水」の構造等を確認している。

今年度の調査は、関連建物や境界柵等の確認を目的として実施した。調査期間は平成21年2月24日～3月27日、調査面積は合計70m²である。なお、計画では4か所（指定地内1か所、指定地外3か所）の確認を企図したが、指定地外の部分については民地であり、今後の調査が困難なことが見込まれた。このことから、遺構をより面的にとらえるべく、指定地内に計画していた1か所を減じ、3か所にトレーニング位置を集約し調査に対応した。

トレーニング1

東西方向に設定した長さ16m、幅2～3mのトレーニングである。他のトレーニングにも共通するが、本年度の調査位置は旧宅地となっており、建物基礎によって遺構面が広範に破壊されていることが調査前に予測され

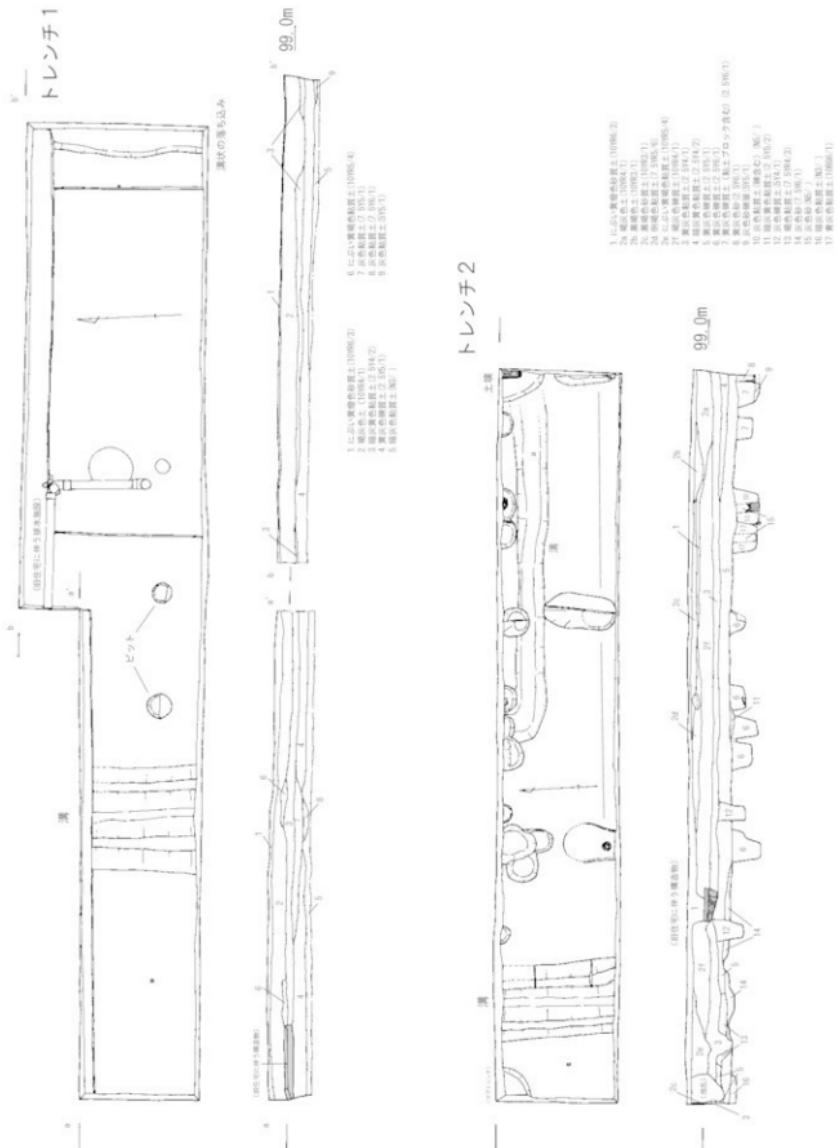


第2図 トレーニング位置図 (S = 1 : 2,400)

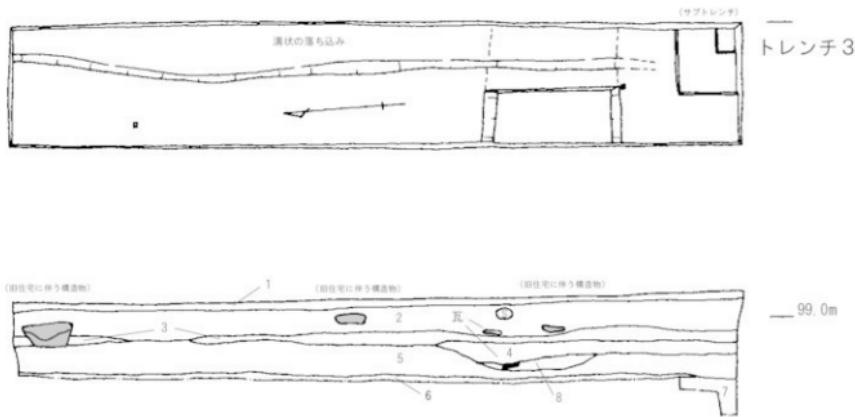
たが、結果として造成土の範囲で建物基礎は収まり、遺構面はほとんど影響を受けておらず、良好に遺構が残存していることが判明した。

本トレーニングにおいては、トレーニング東半で溝1条、中央付近でピット2、そして東端で溝状の落ち込みが確認された。溝及び溝状の落ち込みは検出状況からは南北方向を指向し、ピットは直径、深さとも45cm程度で間隔は約180cmを測るものである。2つは同時期のものとみられるが、西側では検出されなかったことから、一連のものとしてみるならば東方向に統く可能性がある。

いずれも時期を示す出土遺物は皆無で、このため遺構の時期は不明である。トレーニング断面で見ると、トレーニング西半の床面である暗灰色粘質土層から遺構を検出しており、生活面と判断されるが、上層の黄灰色疊質土層（旧耕土下層）も安定したあり方を示しており、一定の生活面であった可能性がある。



第3図 旧津山藩別邸庭園（衆楽園）確認調査（H20年度）トレンチ詳細図(1) S=1/80



第3図 旧津山藩別邸庭園（衆楽園）確認調査（H20年度）トレントンチ詳細図(2) S=1/40

トレントンチ2

トレントンチ1と同じく東西方向に設定した長さ12m、幅2mのトレントンチである。トレントンチ1と同じく暗灰色粘質土層から溝・ピット及び土壤を検出した。溝は2条で、トレントンチ西半において検出した南北方向を指向するもの、トレントンチ中央において検出した南北方向から屈曲し東方向を指向するものである。前者についてはトレントンチ1で検出した溝とその性状が酷似し、連続するものと考えられる。

ピットは大小13が確認された。明らかに柱穴と判断されるものがほとんどで、うち2か所には径15cm程度の柱根が残存していた。複数の同一規模のものが連続するものもあり、検出状況から判断すると現段階では概ね東西方向に指向すると思われる。また、時期的には数次の時期が考えられるが今後検討をする。

土壤はトレントンチ東北隅で確認された。現段階の表現では土壤としているが、コーナー部分に植木もしくは桟と推定される木組みが残存しており、この施設に伴うものと考えられる。また、出土遺物はピット1か所を除き出土しておらず、検出された遺構の明確な時期は不明である。

なお、トレントンチ1と同じく上層の暗灰色粘質土層（旧耕土下層）も安定したあり方を示しており、一定の生

活面であった可能性がある。

トレントンチ3

トレントンチ1～トレントンチ2間に南北方向に設定した長さ6m、幅1mのトレントンチである。トレントンチの東側約1/3の部分は明らかな落込みが認められ、トレントンチ1の東端において確認された落込みが連続するものと判断される。それ以外の遺構は検出されなかった。溝状の落込みに伴う出土遺物はなく、時期は現時点では不明である。

また、トレントンチ2において確認された土壤については、その掘り方はトレントンチ3には及んでいないことをトレントンチ南端に設定したサブトレントンチで確認している。

e.まとめ

今年度の調査地点は、現存する「御対面所園」（年代不詳、松平家初期のものと推定されている）によると建物等の記載がある位置にあたっている。本年度の確認調査によって検出された遺構については、その性格や所属時期が現段階で不明であること等、極めて限定的な情報であり、多分に検討の余地があるものの、当該位置に遺構の所在が確認されたことは今後の調査研究を行っていくうえで有益な成果であるといえる。

（仁木康治）



調査前現況



T-1 (南東から)



ピットと溝 (T-1)



作業状況 (T-1)



T-2 (南東から)



木組み (T-2)



T-3 (南から)



埋め戻し状況

(3) 各種開発に伴う試掘・確認調査 (津山城跡)

a. 調査地 津山市山下100番地 外

b. 調査期間 平成20年4月9日～

平成20年4月11日

c. 調査面積 約186m²

d. 調査の概要



第1図 遺跡地位置図 (S = 1 : 25,000)

津山市山下100番地は古で、古い集合住宅を解体して新しい集合住宅建設が計画された。この建設予定地は、津山城跡の堀の内側で、もともと武家屋敷地であった場所である。古い集合住宅は、切石による石垣の上に建てられており、この石垣の状況、屋敷地内の状況を確認する目的で調査を実施した。調査は平成20年4月9日に人力で掘り下げをおこない、11日に写真撮影、平面図等を作成し埋め戻した。トレントは石垣部分（トレント1）と屋敷地内（トレント2）2ヶ所に設定し、調査面積は約186m²である。

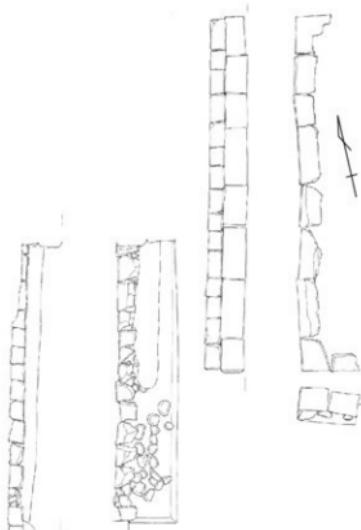
トレント1 (T1)

幅1m、長さ10.2m程のトレントである。切石による石垣は2段積まれ、南北5.8m程あり、北端の石は北側の面が成形されているため、ここで東に折れるものと考えられるが、続きの石は現存しない。南端は東に折れて1石分あるがその続きの石は現存しない。石垣の下段の石は長さ30～50cm、高さ25cm程、上段の石は、長さ60～95cm、高さ35cm程で、南端部分は玉石などの根石の上に1段積まれているだけである。石垣の南側を掘り下げた結果、石垣下段の半分程の高さにそろった石が南に続く事が確認できた。さらに調査区外に続くものと推測される。また、裏込めに使用された玉石も南側を中心に見られ、北側は一部かく乱を受けている。

出土遺物は皆無である。



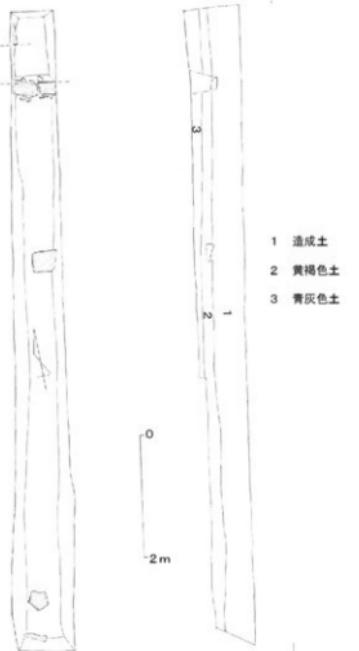
第2図 トレント位置図 (S = 1 : 500)



第3図 トレント1平・断面図 (S = 1 : 80)

トレント2 (T2)

幅0.8m、長さ10.5mのトレントである。現屋敷地の造成土（土層1）が約60cm程あり、その下から旧屋敷地に伴うと思われる遺構が検出された。トレントの北側では玉石の上に北面が整えられた方形の石が検出され、現状では2石が東西に並んでいる。この北側にも南面が整えられた同様な石が一部で見られ、両者の間が65cm程あり、これは溝の一部と考えられる。この溝は東西方向のもので、建物などに伴うものと推測される。また、この溝の南25mには平らな石があり、これは建物の礎石の一部と思われる。トレントの南端



第4図 トレンチ2平・断面図 ($S=1:80$)

にも同様な大き目の石が数点見られ、礎石の可能性もあるが、現屋敷地の造成時に動かされているものと推測される。土層2は旧屋敷を造る際の整地土と思われ、土層3は自然堆積の層である。

出土遺物は皆無である。

e.まとめ

トレンチ1では、石垣の調査をおこなった。現状では、石垣は2段積まれ南北両端で東側に折れているようであるが、詳細は不明である。さらに南に石垣が伸びていた可能性がある。

トレンチ2では、東西方向の溝を検出した。現屋敷地の中央付近にあり、ある時期トレンチ1の石垣やこの溝に伴う建物などが存在していたものと推測される。ただ出土遺物が無いため時期の特定にはいたっていない。

この他建物に関連する礎石と思われる石も複数見ら

れた。ただその多くは後の現屋敷地造成時に大きくかく乱を受けているものと思われる。

(小郷利幸)



調査前（北西から）



トレンチ1（南から）



トレンチ2（北から）

第Ⅲ部
文化財の保護・管理

A. 文化財の保護

1. 文化財保護委員会

第1回 10月8日、第2回 2月27日

2. 新指定の文化財

《登録有形文化財》

J R 因美線美作滝尾駅舎

(11月10日付け)



《県指定文化財》

本源寺寺靈屋、表門及び津山藩主森家一門墓

(3月10日付け)



《市指定文化財》

中山神社惣神殿



大隅神社昭徳館



地蔵院愛宕堂



千磐神社のスギ



(10月30日付け)

地蔵院本堂・愛宕堂附棟札



(3月26日付け)

3. 文化財防火訓練

1月25日 正覚寺

B. 指定文化財の管理

1. 国指定文化財

《建造物の修理等》

中山神社本殿保存修理工事（2年次、現地説明会：10月4日～5日、3月21日～22日）

中山神社・鶴山八幡神社・總社防災設備保守点検
《史跡の公有化、整備》

美作国分寺跡の公有化事業（4年次）

・土地6筆の購入、建物移転補償、草刈

津山城跡の保存整備事業

・天守曲輪西半整備事業（3年次）

・切手門跡の発掘調査

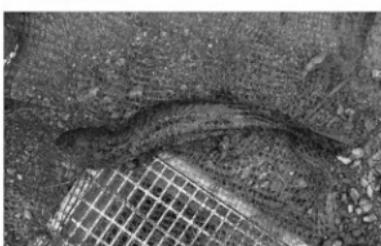
・「津山城だより No.13」の刊行

・整備委員会の開催：7月20日、3月19日

《史跡の管理、草刈等》

美和山古墳群の管理、草刈・剪定

三成古墳の草刈



捕獲したオオサンショウウオ

院庄館跡の管理・草刈

《天然記念物の管理》

トラフダケ自生地の管理

オオサンショウウオの捕獲（3匹）

《有形民俗の防災点検》

田熊の舞台防災設備保守点検

《説明板の設置》

高野神社木造隨身立像ほかの説明板

2. 県指定文化財

《史跡の草刈》

日上天王山古墳・日上戸山古墳群草刈

久米庵寺跡草刈

矢筈城草刈

岩屋城草刈、

《天然記念物の管理》

尾所の桜の管理

《無形民俗の補助》

新野まつり、八幡神社・物見神社の花祭りの保存伝承への補助

3. 市指定文化財

《史跡の草刈等》

沼遺跡草刈・剪定、高床倉庫の復元



井口車塚古墳草刈

中宮1号墳草刈

飯塚古墳草刈

正仙塚古墳草刈

煙硝藏跡草刈

茶屋の一里塚管理

神楽尾城草刈・倒木の処理

西登山金屋寺草刈
河辺上之町草刈
《建造物の修理》
高野神社隨身門覆屋の修理
《説明板の設置》
千磐神社の臥龍藤・スギの説明板設置
西村古墳群説明板の修理
奥の前古墳説明板・案内板設置

4. その他の文化財

津山中核工業団地内古墳（一貫東1号墳）公園草刈

C. 歴史民俗資料館の管理運営

1. 加茂町歴史民俗資料館

利用者数 278人、社会福祉法人津山市社会福祉協議会に管理を委託

2. 勝北歴史民俗資料館

利用者数 87人、消防用設備保守管理委託、清掃・燃蒸・整理作業

3. 久米歴史民俗資料館・民具館

利用者数 244人、消防用設備保守管理委託

4. 阿波民具館

利用者数 把握できず、大高下ふるさと村運営組合に管理委託

第Ⅲ部
資料紹介・研究ノート

津山城天守指図に見える柱傾斜についての考察

乾 貴子

はじめに

天守は近世城郭を象徴する建物であり、今日では日本の主要都市のランドマークとなっている。特に地方都市にとって城跡は景観を形成する中核であり、城下町のシンボルとして、観光資源として、全国で戦前に6棟、戦後に49棟の天守が復元されている^{註1}。現在の津山城天守跡には土台の石垣が残るのみであるが、かつて昭和11年（1936）に天守を復興している。ただし、この時の天守は博覧会を開催した際に建設された模擬天守で、終戦直前の昭和20年に撤去された。なお、津山城の築城は慶長9年（1604）から元和2年（1616）にかけて行われ、天守以下の建造物は廃城令により明治7年（1874）に破却されるまで存続した。天守は4層5階・地下1階の純塗籠漆喰の層塔型天守であった。最近の発掘調査によると、天守台石垣の遺構に築城段階の試行錯誤の痕跡が確認されており、全国的な築城ラッシュにあたる当時における築城技術の進歩はかなり著しかったことが明らかになっている。

津山城の建築意匠に関する考証については、古くは藤岡通夫（1969年）による研究があるが、その後は鈴木充・三浦正幸による立体模型の製作（1990年）や、鈴木充監修のコンピューターグラフィック（津山城築城400年記念事業実行委員会、2003年）などがあり^{註2}、復元図は次第に精緻なものとなってきている（敬称略）。こうした、建造物の復元を試みる際に重要な手がかりとなるのが絵画史料である。津山城天守を描いた絵団類の中でも、「津山城天守地絵図」および「津山城天守指図」（津山郷土博物館所蔵）は軸組みモデルの復元を可能にした貴重な史料である^{註3}。これは

註1 高瀬要一「近世城郭における天守閣復原」（『文化財論叢』第50号、奈良文化財研究所創立50周年記念論文集『奈良文化財研究所学報第65号』、独立行政法人文化財研究所、奈良文化財研究所、2002年）

註2 藤岡通夫「美作津山城復元考」（『近世建築史論集』昭和44年、中央公論美術出版）、『津山城復元模型の制作過程』（津山郷土博物館紀要第2号、1990年）、鈴木充監修「よみがえる津山城」（津山城築城400年記念事業実行委員会、2003年）

註3 「津山城 資料編」（津山市教育委員会、2000年）、「津山城 資料編解説」（津山市教育委員会、2002年）。なお、「津山城天守指図（四重目、五重目）」中に「弘化四年未

藩の作事方が幕末の弘化4年（1847）に作成したもので、史料的価値は高く、城郭史・建築史における第一級の絵図として知られている。同史料が基礎史料となり、関係する諸史料や古写真等との照合によって、立面図、立体模型、CGなどのさまざまな手法で復元図が表現してきた。しかし、同史料は建築意匠に関する考証で活用してきたものの、下げ振り検査の測定値を詳細に記録した実測図的な要素の強い史料である点についての検討はあまり重視されてこなかった。

さて、幕末の津山城天守で行なわれた下げ振りとは、紡錘形の鍾を垂らして水平・垂直方向の柱の変位を計測し、その測定値と柱の高さから土地・家屋の傾斜角度を測定する検査である。そのため、「津山城天守地絵図」には、下げ振りの測定値のほか、柱の配置・寸法・材質や、長押・鶴居・窓・狹間・敷居・豊数・板敷面積・間取り等の内部意匠に関する詳細な書き込みが見られる。

そこで、本稿では「津山城天守地絵図」および「津山城天守指図」は下げ振りの測定値の記録であるという史料の性格を踏まえ、その検査結果について考察した。また、あわせて津山城天守の建築意匠に関する諸史料についても概観し、史料間の比較を試みた。

1. 柱配置と柱傾斜について

絵図作成の背景については、藩の勘定方の日記である「勘定奉行日記」に記録が見られる。それによると、

一、作事惣香込左之通伺書差出荷済

御天守近來之處ニ曲木立候様相見申候然共何程ト申曲も難見定候ニ付重々ニ而水盛井下ケ振致置一兩年之曲見定申度少タニ而も動付候様相見候ハ、其上御修復成可申奉存候此段奉伺候
（『勘定奉行日記』弘化4年10月13日条）

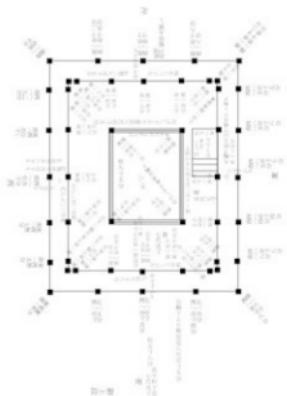
と記されている。この記事によって、天守の柱に楣曲が現れたことから、水盛と下げ振りを行なったこと、その際に検査期間を2年に設定し、柱傾斜の進行状況

十二月朔日」とあり、「津山城天守地絵図」と同じく弘化四年成立である。

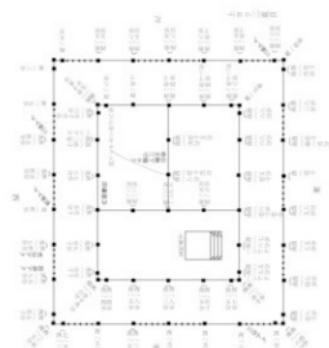
を見極めた上で修復の必要性を判断していたことがわかる。この弘化4年(1847)の下げ振りと水盛り検査の際に作成されたのが、「津山城天守地絵図」および「津山城天守指図」であると考えられる。

両絵図のうち、「津山城天守地絵図」(全7点)の3～5階および地下の図面には下げ振りの計測値が書き

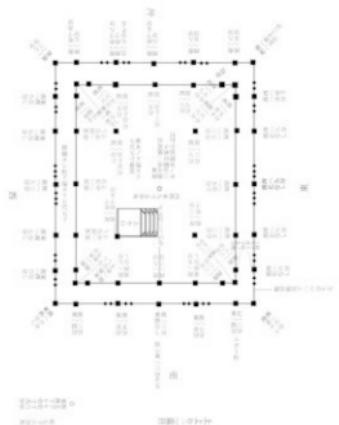
込まれている。また、「津山城天守指図」(全6点)にも、4・5重目を描いた指図に下げ振りの計測値を記載したもののが1点含まれている。これら一連の絵図によると、天守の上層階の柱は、鉛直下より南へ1寸(≈ 3.03 cm)、西へ1寸程度変位していたことがわかる。柱の傾斜角は柱の高さから計算することができる。柱の規



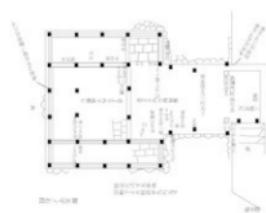
上より1層目



上より3層目



上より2層目



地階

「津山城天守地絵図」解説

格は、表1のように記されている。これを基に柱の傾斜角を計算すると、表2の通りとなる。

なお、「津山城天守地絵図」に描かれている柱配置を見ると、層塔型天守の特徴である通し柱を持たない構造となっていることがよくわかる。また、隅柱に近くにしたがって柱間隔が広く開いていて、柱配置が変則的に描かれているが、この点については構造力学的に見て疑問が残ることが指摘されている^{3,4)}。また、書き込まれている柱間の計測値と柱配置の描画との間には整合性が見られない。したがって、同絵図の描画の精度については検討を要するが、ここでは便宜上、

註4 藤岡通大「美作津山城復元考」(近世建築史論集)昭和44年、中央公論美術出版

	計測地点	長さ	幅
5階	長押下～疊	81.5寸 (246.945cm)	9.5寸 (28.785cm)
	台輪下～敷居	*	7.8寸 (23.634cm)
	？～柘下	-	5.8寸 (17.574cm)
4階	5階上段柱の直下	-	9.5寸 (28.785cm)
	毫木下端～疊	77寸 (233.31cm)	7.6寸 (23.028cm)
	豈御タシ傍下端～？	*	(23.028cm)
3階	引物下～？	103寸 (312.09cm)	-
2階	-	-	-
1階	-	-	*
地下	引物下～？	95寸 (287.85cm)	12.5寸 (37.875cm)

出典：「御天守地絵図」(弘化4年改) 津山郷土博物館所蔵
註5 「御天守地絵図」(弘化4年改) 津山郷土博物館所蔵 全7点のうち、各層の柱配置と下げ画りの測定値を記している4点(地下および3～5階)を対象にして計算した。

表1 柱の寸法

	atan((南北距離 / 西方距離) × 180 / pi)	南北方向に対する西への角度	方角	南北方向距離・西方向距離(寸)	南裏集十西裏集(寸)	直線距離(寸)	直線距離(cm)	傾斜角計算式 atan((柱高 / 柱定位) × 180 / pi)	傾斜角(°)
5階	北西隅 35.53767779	54.46232221	西南西北	南0.75 西1.05	1.665	1.29034879	5.04495	88.82964143	1.170358569
	北東隅 37.30575953	37.69424047	西南西北	南1.1 西0.85	1.9325	1.390143877	5.855475	88.64167553	1.358324468
	南西隅 40.10090755	49.899690245	西南西北	南0.8 西1.4	2.6	1.61245155	4.88572956	88.8665687	1.1334313
	南東隅 29.7448813	60.25561187	西南西北	南0.3 西0.95	0.9925	0.996242942	5.04495	88.82964166	1.170358337
4階	北西隅 59.03624347	30.96375653	南南西北	南1.0 西0.6	1.36	1.166190379	3.533557	89.1323021	0.867697699
	北東隅 35.21759297	54.78240703	西南西北	南0.6 西0.85	1.0825	1.040432602	5.04495	88.82964143	1.170358569
	南西隅 70.01669348	19.98310652	南南西北	南0.8 西0.2	0.04	1.29034879	3.90975747	89.09209369	0.907060406
	南東隅 0	90	西	南0.55 西0.2	0.3425	0.585234996	1.77326205	89.58857815	0.41421846
3階	北西隅 15.94539969	74.05460401	西南西北	南0.4 西1.4	2.12	1.456021978	4.4174666	89.1901124	0.809867596
	北	-	北	0.7	0.7	2.121	89.6106172	0.389382798	
	北東隅 16.69924423	73.30075577	南	南0.3 西1.0	1.09	1.044030651	3.16341393	89.44374777	0.556252227
	東	-	西	1.0	1	3.03	89.44374777	0.556252227	
	南西隅 19.65382406	70.34617594	南	南0.8 西0.5	0.89	0.943308113	2.85849594	89.44374777	0.556252227
	南	-	南	0.4	0.4	1.212	89.44374777	0.556252227	
	南東隅 57.99461679	32.00538321	南南西北	南0.5 西1.4	2.21	1.486606875	4.50441921	89.17310283	0.628697166
	西	-	西	0.7	0.7	2.121	89.6106172	0.389382798	

出典：「御天守地絵図」弘化4年改 津山郷土博物館所蔵

註5

x=南北方向にに対する下げ振り落点地a (x,y)
y=東西方向にに対する下げ振り落点地a (y) (南北方向への変位)

z=柱の高さ

$$a-a' = atan(x / y) \times 180 / \pi$$

$$\text{傾斜角度} (\theta) = atan(z / a - a') \times 180 / \pi$$

$$\text{傾斜方角} = x^2 + y^2 - 2$$

$$\text{傾斜方角} = \sqrt{x^2 + y^2}$$

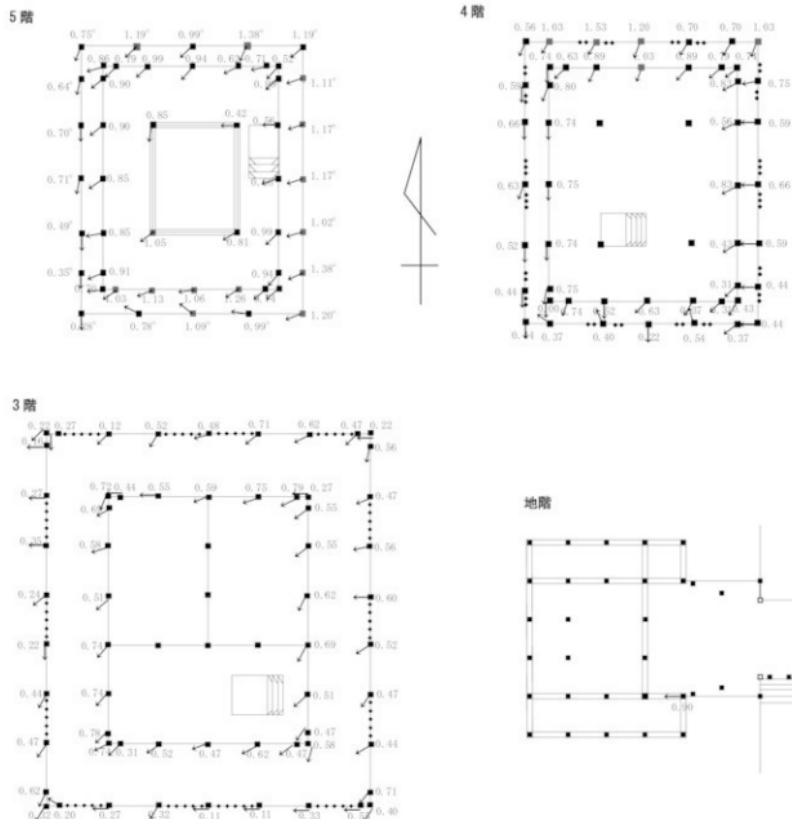
同絵図のトレース図に下げ振りの検査結果を落として検討する。

図1は柱の傾斜方向と傾斜角度をトレース図に示したものである。これを見ると、柱の傾斜方向はおむね南北であること、傾斜角は1°程度で、4階・5階の上層部を中心に柱傾斜が顕著であること、地下の柱の一部が座屈していることなどがわかる。また、柱の一つ一つの傾斜方向が異なり、上層階に上がるにつれてひずみが増幅している様子が読み取れる。天守が通し柱を持たない構造であったため、こうした現象が引き起こされたものと考えられる。

天守が南西方向に傾斜している理由については、まず地盤の問題をあげることができる。すなわち、天守曲輪南西部は、後線上の造成地で地盤が特に弱い区域であり、その南端部に位置する五番門南石垣もやはり南西に傾斜していたからである(図2)。同石垣は平成13年に改修工事が行なわれたが、その直前には孕み出しが進行して崩壊の危険性が極めて高い状態であった(写真1)。その要因について、保存整備事業報告書では軟弱な地盤および高石垣による背面支持力の不足という問題点を指摘している¹¹⁾。五番門南石垣も南西方向への傾斜が発生しており、天守曲輪南西部

註5 「史跡津山城 保存整備事業報告書」(津山市教育委員会、2007年)

表2 柱傾斜の角度および方角



■は柱傾斜角1°以上の柱を示す

→は傾斜の方角を示す

出典:『御天守地絵図』(弘化四年改) 津山郷土博物館

図1 天守柱傾斜3～5階 (弘化4年)

の構造物は南西方向へ傾斜する傾向にあったことがわかる。老朽化に加えて、立地面の弱点が大きく作用したものと考えられる。建物の自重による柱の不同沈下により天守が傾斜した例としては、松本城天守のケースがあり、天守が無残にも大きく傾いていた姿は明治の古写真に撮影されている^{註6}。

なお、「津山城天守地絵図」の描画から断面図を復元してみると、上から5層目の軒端が石垣根石先端部

註6 「古写真に見る日本の名城」(新人物往来社、2008年)参照。
明治後期の松本城天守が大きく傾いた様子を捉えた古写真が掲載されている。



写真1 五番門南石垣南面解体修理前

の垂直線上まで伸び、地階は鉄門柱と石垣との間に隙間があったと考えられる^{註7}。

2. 天守に関する絵図および文献史料について

次に、津山城天守の復元に関する史料について概観する。ただし、ここでは古写真は検討の対象から外すこととする。なお、すでに藤岡通夫による関係諸史料の検討があるが^{註8}、そこでは取り上げられていない史料を管見の限り追加した。関係史料は成立年代と記載事項によって概ね表3のように4つの史料群に分類できる。

註7 津山城の復元断面図には、前掲の藤岡通夫「美作津山城復元考」や三浦正幸「城の鑑賞基礎知識」(至文堂、1999年)に掲載のものなどがある。

註8 藤岡通夫前掲書(註2)

A群	〔作州記〕鶴見之城（貞享4年卯4月24日改） / 〔吉備群書集成〕2 〔津山城内調査〕（貞享4年卯4月改） / 〔美作國津山誌〕 〔御城内諸記録〕（貞享4年卯4月24日改） / 月報106（矢吹家資料） 〔貞享四年改書〕 / 〔津山市史〕第3巻 近世1
B群	〔御天守之鏡〕（丑ノ11月13日） / 〔個人蔵〕、津山城資料編 〔津山天守井跡時間数〕（寅正月5日） / 〔個人蔵〕、津山城資料編 〔作州津山御城内之記〕〔作州津山御城開闢〕 / 〔個人蔵〕、津山城資料編
C群	〔御天守之図〕〔作州津山御城内之記〕 / 〔個人蔵〕、津山城資料編
D群	〔御天守地絵図〕（弘化4年） / 〔愛山文庫〕、津山城資料編

表3 津山城天守復元関係史料一覧



図2 地形図及び天守曲輪位置図

史料A群（貞享4年）：梁桁の実測値等	記載がなくなり、同絵図では貼紙で消去している。
史料B群（成立年未詳）：意匠の詳細と設計値	④御調台 記載がない、あるいは消去の痕跡あり。
史料C群（成立年未詳）：外観の基本データ（設計値）	⑤穴蔵梯子 史料群Aだけに記載がみられる。
史料D群（弘化4年）：軸組の詳細測定値（柱傾斜検査）	⑥地下敷板面積 増加している。 史料群Aの史料では 2.5×2.5 だが、史料群Bでは 2.5×4 となっている。

なお、天守の復元図に関するこれまでの研究における史料の引用状況について表4に示した。史料B群はこれまでの考証では用いられていない史料であることわかる。

史料の記載を比較すると、各史料の数値は一致せず、設計値と計測値が混在していることがわかる。整数で表されているものは設計値と考えられるが、これは史料B・C群に多い。一方、実測値と思われる数値は史料A・D群に多い。史料群別にはある程度数値が一致しているが、細かい相違点も少なくない。特に、内部意匠・間取りについての記載には異同が多い。記載の異同は天守の改築を示す可能性もあるが、単なる誤写とも考えられる。記述の相違点の概要は次の通りとなっている。

①窓・弓狭間・鉄砲狭間・石落し

減少傾向にある。

②屢數

増加傾向にある。

例えれば、5階は史料群Aでは25疊、史料群Bでは40疊などとなっている。

③湯殿	記載がなくなり、同絵図では貼紙で消去している。
④御調台	記載がない、あるいは消去の痕跡あり。
⑤穴蔵梯子	史料群Aだけに記載がみられる。
⑥地下敷板面積	増加している。 史料群Aの史料では 2.5×2.5 だが、史料群Bでは 2.5×4 となっている。
⑦地下敷石面積	減少している。 史料群Aの史料では 5×45 だが、史料群Bでは 3×5 となっている。

窓・弓狭間・鉄砲狭間の数、石落としの位置については諸説があるが、史料群の編年が仮にA B C Dの順であるとすれば、窓・弓狭間・鉄砲狭間・石落しは次第に減少したという見方も可能であろう。また、この編年に基づくと、天守では疊数が増加し、湯殿・御調台・穴蔵梯子が改築されてなくなり、地階の敷石面積が増加し、敷石面積が減少するなどの変化があったことになる。

おりわりに

最近の津山城の発掘調査によれば、天守曲輪については、夥しい量の栗石の充填によって地盤の強化が図

史料名	藤岡論文	三浦論文	鈴木監修C.G
〔作州記〕鶴山之城（貞享4年卯月4月24日改）／「吉備群書集成」2	○	○	-
〔御城内諸記録〕（貞享4年卯月4月24日改）／弓兼善書106（矢吹家資料）△（付図のみ？）△（付図のみ？）	△	△	-
〔御城内諸記録〕（貞享4年卯月4月24日改）の附図／弓兼106（矢吹家資料）	○	○	-
〔津山城内諸書〕（貞享4年卯月改）／「美作國津山誌」	○	○	-
〔貞享四年改書〕／「津山市史」第3巻 近世I	×	×	-
〔御天守之實〕（沼ノ11月13日）／個人蔵、津山城資料編	×	×	-
〔津山天守井御城間数〕（寛正月5日）／個人蔵、津山城資料編	×	×	-
〔作州津山御城内之記〕作州津山之御城開築／個人蔵、津山城資料編	×	×	-
〔作州津山御城内之記〕御天守之図／個人蔵、津山城資料編	×	×	-
〔御天守地絵図〕（弘化4年）／愛山文庫、津山城資料編	△（柱配置のみ？）	△（柱配置のみ？）	-
正保城絵圖／国立公文書館内閣文庫、津山城資料編	×	○	-

註

藤岡論文：藤岡通夫「美作津山城復元考」（「近世建築史論集」昭和44年、中央公論美術出版）

三浦論文：三浦正幸「津山城復元模型の制作過程」（津山郷土博物館紀要第2号、1990年）

鈴木監修：鈴木充監修津山城 CG（大成建設、2003年）

表4 論文引用史料一覧

天守最上層（5階）

	A	B	C	D
	(西側)	(東山城内側壁)	(南側内側壁)	(西側内側壁)
上部			(南天守2段目)	(南天守2段目)
表面			2段目・4段目 南北各4間	南北各4間 南北各4間
相模	東西5間1尺3寸 南北6間3寸	東西6間1尺 南北6間1尺	東西5間1尺 南北6間3寸	東西4間 南北4間
豪物(上段)	10畳	10畳	10畳	10畳
豪物(中段)	20畳	20畳	40畳	40畳
柱下法・材質	柱4寸4分		1尺角・楓 柱5寸4分・楓	柱5寸4分・楓 柱5寸4分・楓
柱下法・材質			柱5寸4分・楓 柱5寸4分・楓	柱5寸4分・楓
柱下法・材質			柱5寸4分・楓 柱5寸4分・楓	柱5寸4分・楓
豪物	東西4・南北4	東西6・南北4	20	
豪物(豪物)	東西4・南北4	東西2・南北4	20	
柱下法(豪物)	東西6・南北4	東西2・南北3	10	

4階

	A	B	C	D
	(西側)	(東山城内側壁)	(南側内側壁)	(西側内側壁)
表面			(南天守2段目)	(南天守2段目)
入側	東西5間6寸6分 南北5間7寸3分	東西5間1尺 南北6間1尺	東西5間1尺 南北6間1尺	東西4間 南北5間
豪物			80畳	80畳
豪物(上段)	20畳	20畳		
豪物(中段)	20畳			
豪物(下段)	半間		当向5寸 当向5寸	当向5寸 当向5寸
柱下法・材質			柱5寸4分・楓	柱5寸4分・楓
柱下法			柱5寸4分・楓	柱5寸4分・楓
豪物	東西4・南北4	東西6・南北4	20	20
豪物(豪物)	東西4・南北4	東西2・南北4	20	20
柱下法(豪物)	東西4・南北4	東西2・南北3	10	(1間間隙)

3階

	A	B	C	D
	(西側)	(東山城内側壁)	(南側内側壁)	(西側内側壁)
表面			(南天守2段目)	(南天守2段目)
入側	東西6間2尺2寸 南北7間3寸6分	東西6間半 南北7間半	東西6間3尺 南北6間	東西6間半 南北7間半
豪物	120畳+40畳(80畳)	84畳	84畳	84畳
柱下法・材質			柱5寸4分角 柱5寸4分角	柱5寸4分角 柱5寸4分角
柱下法			柱5寸4分角 柱5寸4分角	柱5寸4分角 柱5寸4分角
豪物	東西4・南北4	東西3・南北3	14	14
豪物(豪物)	東西4・南北4	東西3・南北3	14	14
柱下法(豪物)	東西4・南北4	東西3・南北3	14	14

2階

	A	B	C	D
	(西側)	(東山城内側壁)	(南側内側壁)	(西側内側壁)
表面			(南天守2段目)	(南天守2段目)
入側	東西7間1尺3寸7分 南北5間2寸5分	東西6間 南北3間	東西6間 南北3間	東西6間 南北3間
豪物	120畳+84畳(144畳)	144畳	144畳	144畳
柱下法・材質			柱5寸4分角 柱5寸4分角	柱5寸4分角 柱5寸4分角
柱下法			柱5寸4分角 柱5寸4分角	柱5寸4分角 柱5寸4分角
豪物	東西4・南北4	東西4・南北4	14	14
豪物(豪物)	東西4・南北4	東西4・南北4	14	14
柱下法(豪物)	東西4・南北4	東西4・南北4	14	14

1階

	A	B	C	D
	(西側)	(東山城内側壁)	(南側内側壁)	(西側内側壁)
表面			(南天守2段目)	(南天守2段目)
入側	東西10間 南北11間	東西10間 南北11間	東西10間 南北11間	東西10間 南北11間
豪物	120畳+104畳(220畳)	220畳	220畳	220畳
柱下法・材質			1尺角・楓	1尺角・楓
柱下法			柱5寸4分角 柱5寸4分角	柱5寸4分角 柱5寸4分角
豪物	東西4・南北4	東西4・南北4	17	17
豪物(豪物)	東西4・南北4	東西4・南北4	17	17
柱下法(豪物)	東西4・南北4	東西4・南北4	17	17
柱下法			5	5
豪物	東西4・南北4	東西4・南北4	5	5

地下

	A	B	C	D
	(西側)	(東山城内側壁)	(南側内側壁)	(西側内側壁)
柱下法			2間半・4間 2間半・4間	2間半・4間 2間半・4間
軸組			3間1・5間 3間1・5間	3間1・5間 3間1・5間
軸組				1尺4寸4分角 1尺4寸4分角

表5 天守の内部意匠に関する記載の異同

られていることや、天守の基礎工事では柱の不同沈下防止策として礎石上に木材を渡す工法が採られていたことが解明されている^{註9}。『津山城天守地絵図』を検討した結果、幕末には傾斜角約1°の柱傾斜が発生していたことがわかった。津山城天守がこの程度の柱傾斜で制御され、倒壊の危険を回避できた背景には、土地造成と基礎工事におけるさまざまな技術の集大成があるだろう。また土地造成段階の莫大な労働力の投入によるものも大きいといえる。津山城のような典型的な平山城であれば、地形的な制約によって土地造成にかなりの困難が伴う。さらに、天守は尾根上の造成地に立てられた特殊な高層木造建築物であり、高度な築城技術が要求されたであろう。そしてまた、築城から廃藩までの約270年のおよそ3世紀にわたるメンテナンスの歴史も建造物の維持にとって大切な役割を果たしていることも改めて感じさせる。

【謝辞】

本稿作成にあたり、平岡正宏主査の御教示を得ました。
末筆ながら、お礼申し上げます。

註9 『津山城百間録』（津山市、2009年）参照。天守の基礎の工法について、①柱が立ぶ位置に礎石列を配置する②礎石列の上に土台の木材を設置する③土台の木材の間に敷石を配置する④柱を建てるという順序で構築され、柱の位置に礎石を直接配置して柱を建てるよりも頑丈な構造となっていることが指摘されている。

美作の狛犬（1）津山市

田潤千香子

はじめに

神社を訪れると参道脇などにちょこんと、犬のような猫のような形をした石造物が座っている。狛犬である。均整のとれた美しい姿形をしたものから、脅迫的な怖い顔をしたもの、奇怪で怪しげなもの、おとほけてユーモラスなものまで様々な面相をしている。大きさも50cm程度のものから170cmを越すようなものまである。時代や地域、寄進者と石工の思考などで形づくられる様々な表情には、その背景にある歴史や人々の営みを表現しているように見受けられる。

狛犬は聖なる場所を守護するための靈獸で、左右一対で置かれる。平安時代は木造で神殿の内部に置かれた。当時の狛犬には双方に外見の違いがあり、口を開けているのが「獅子」、口を閉じて角が生えているものが「狛犬」とはっきりとした違いがあった。しかし、時代が下るに連れて双方の違いがなくなり、狛犬が獅子化して現在にみられるような「獅子・獅子」の形が定着していったようである^{註1}。

江戸時代以前は、国司や守護などの土地の有力者が奉納していたが、それ以後は氏子、商人、町人などが競って寄進するようになり、現在、神社の参道でみられるような狛犬が全国に広がっていった。それに伴い

狛犬は、本殿の内部から外に出て神社を守るようになり、材質も木製のものから風雨に強い花崗岩、凝灰岩、砂岩などの石製へと変わっていった。現在では、陶製、瓦製、コンクリート、樹脂などで造られた狛犬もある。江戸・明治・大正・昭和・平成と時代の変化を見つめてきた狛犬は、時代が変わり訪れる人もまばらになり、風化の一途をたどっている。この状況は狛犬に限らず、神社境内の鳥居、灯籠、玉垣、手水石などの他にも、地神塔、道標、五輪塔など道端で見かける石造物にも及び、その存在の意味さえ知る人は少なくなってきた。先祖が残してきたものを忘れ去り、その上に暮らしていくことが豊かな生活といえるのだろうか。変化する時代を生き抜いてきた石造物を、次代に伝えていくことの重要性を改めて感じさせられている。

今回、市内154社の神社を巡り、狛犬が確認できたのは67対である。しかし、まだ巡っていない神社が多数あるため、今後、さらにその数は増えるものと思われる。小稿では67対の狛犬を年代、石工銘、姿形、材質などから大阪の狛犬・出雲型・尾道型・岡崎型の4タイプに大別した。以下、それぞれのタイプの特徴と変遷について検討することにする。

註1 上杉千郎『狛犬事典』或光出版2001年



阿形



吽形

(イラスト提供：田潤智也)



写真1 中山神社（一宮）
石工・泉州住石工小鯱市兵衛
明和元年（1764）

写真2 八幡神社（阿波）
石工・泉州貝掛村住人里山源助
弘化2年（1845）

写真3 八坂神社（近長）
石工・大阪石工石光
明治31年（1898）

写真4 金刀比羅神社4(加茂中原)
石工・泉州貝掛住里山源助
年代不詳

大阪の狛犬

大阪の狛犬

江戸時代後半の明和元年（1764）に奉納された一宮の中山神社神門前の狛犬を最古とする（写真1）。台座には、石工名「泉州住石工小鯱市兵衛」が刻まれている。この狛犬が奉納された時代は、全国的にみても狛犬の全盛期であり全国各地で様々な狛犬が造られ奉納された。市内では、この狛犬が奉納された時期から明治の終わりまでは、大阪の狛犬が大半を占める。

この時代のものは個性が強く、それぞれが独特な形をしている。それは、美作全域でも同じ状況にある。大阪の狛犬は、色々な姿形をしているため、分類することは容易ではない。さらに、大阪の石工の名前が銘記されていても型式は他のものと譲り受けているものも

あり、一概にタイプを断定することは難しい。しかし、上を向いた横広の鼻、垂れ耳、花崗岩製のものが多いなどの特徴をあげることができる。姿勢は座形（ざんきょう）の姿勢）が基本で、頭は綾長や丸頭で影は浅く、鬼面・人面に近い印象である。また、本来の「獅子・狛犬」の形式を踏襲しているため、吽形の頭部には角があるものがある^{註2}（註2）。一宮の中山神社（写真5）、總社の總社宮の吽形がそれである（写真6）。石工の名前が刻まれており、大阪で作られた狛犬であるとわかるものには、中山神社（写真1）、阿波の八幡神社（写真2）、近長の八坂神社（写真3）、加茂中原の金刀比羅神社（写真4）があげられる。しかし、八幡神社、金刀比羅神社の狛犬は、大阪の石工の名が記されてはいるが、型式からいうと出雲型座形になるため、分類が難しいところである^{註3}。ここでは、大阪の石工の銘があるため、大阪の狛犬に分類した。

出雲型狛犬

大阪の狛犬の後に続くのは出雲型狛犬である。新庄村の御鶴神社の狛犬（写真13）は、慶應2年（1866）、真庭市美甘の美甘神社の狛犬（写真14）は、明治31年（1898）作製である。市内で確認できる出雲型狛犬の最古のものは、徳守神社の拝殿前の狛犬で、明治40年（1907）の作である。これらのことから、出雲街道を介して徐々に津山市内に伝播してきたものと考えられる。このことは、今後調査を蓄積することによ

註2 上杉千鶴『狛犬事典』光文出版 2001年

註3 倉敷埋蔵文化財センター 藤原好二氏のご教示による。



写真5 中山神社（一宮）
明和元年（1764）

写真6 美作總社宮（總社）
嘉永6年（1853）

角のある狛犬



写真7 徳守神社本殿前（宮益町）
石工・不詳
明治10年（1877）

写真8 田神社（下田邑）
石工・津市二宮石工田淵良次郎
昭和8年（1934）

写真9 佐良神社（一方）
石工・不詳
昭和9年（1935）

写真10 吉田神社（神戸）
石工・津市二宮工作田淵良治郎
昭和12年（1938）

出雲型座形狛犬（1）

り明らかになっていくものと思われる。

出雲型狛犬は、来侍石で造られているものがほとんどである。来侍石は宍道湖の南に注ぐ来川周辺から産出される石で、狛犬細工に適した柔らかかな石として知られている。江戸時代から明治・大正にかけて大量に造られ、北前船を使って広く日本海側全域に広まった。日本海沿岸で見られる古い狛犬には、このタイプの狛犬が多い⁴⁴。しかし、柔らかく細工がしやすい反面、壊れやすく風化が早いという欠点もある。

出雲型狛犬の姿勢には座形と構形（前足を踏ん張り、後ろ足を上に伸ばし今にも飛びかかってきそうな構えの姿勢）の2タイプがある。構形は、市内では確認できなかったが、現在調査中の真庭市、新庄村、鏡野町

註4 ねずみつや『狛犬学事始』ナカニシヤ出版 1994年

周辺には多数見られる。

出雲型狛犬は、決まった形をコピーしたもので大阪の狛犬ほどの個性はないが、手彫りであるため、当然のことながら個体差はある。外見は、頭が比較的大きく四角い感じで獅子舞の獅子頭のような印象をうける。耳は垂れて長く、尾は楕円錐の炎の様にまとまって立ち上がる。牡丹の絵が施された基盤上の台座がセットになる。

尾道型狛犬

尾道型狛犬は、長く伸びたするどい犬歯をもち、尻尾は刺々しく逆立ち、耳が横に大きく突出するもので、座形・構形・玉乗り形の3タイプがある。市内で座形に属するものは、上之町の大隅神社の狛犬（写真15）である。構形は一宮の中山神社（写真17）、宮尾の八



写真11 瓜生神社（瓜生原）
石工・不詳
昭和15年（1940）

写真12 千賀神社（千和）
石工・不詳
昭和16年（1942）

写真13 御鷦神社（新庄村）
石工・伯州石工文四郎
慶應2年（1866）

写真14 美甘神社（真庭市美甘）
石工・不詳
明治31年（1898）

出雲型座形狛犬（2）

出雲型構形狛犬



写真 15 大隅神社（上之町）
石工・備後尾道市助
明治 2 年（1869）



写真 16 八幡神社（宮尾）
石工・不詳
明治 40 年（1907）



写真 17 中山神社（一ノ宮）
石工・不詳
明治 41 年（1908）

輔神社の狛犬（写真 16）がそれにあたる。広島県や岡山県南に多く見られる玉乗り形狛犬は、今回の調査では確認できなかった^{注5}。箱座には、格狭間あるいは牡丹装飾を施すものが多く、大隅神社は格狭間、八幡神社・中山神社のものには牡丹装飾が施されている。

大阪の狛犬・出雲型狛犬の混在期に入ってきた尾道型狛犬は、上之町の大隅神社の狛犬が明治 3 年（1870）で最も古い。台座には「備後尾道市助」の銘が入っている。この「備後尾道市助」は、笠岡市園井の源訪神社、浅口市鶴方町本庄の大歳天神社の狛犬を彫った「尾道石工市村定助」のことではないかという見解もある。

註5 藤原好二「倉敷の歴史－倉敷市史紀要－第十七号備中南部における石製宮獅子～尾道石工の影響を中心にして」倉敷市教育委員会 2007 年と藤原好二氏のご教示による。

る^{注6}。両者とも明治 12 年（1879）の作で、大隅神社と年代的にも近いことからその可能性は高いと思われる。

岡崎型狛犬

岡崎型狛犬は、現在、日本各地どこへいっても確認できるタイプである。市内でも多く見られ、昭和 10 年以降の狛犬は、ほぼ岡崎型といってもよく全体の半数近くを占める。この狛犬は、愛知県岡崎市で生まれ、神殿狛犬の様式を現代風にアレンジしたものである。この狛犬が全国的に広まった理由としては、岡崎現代型の生みの親といわれている石工・酒井孫兵衛（6 代目）がオリジナルの狛犬造りに情熱を燃やし、金石神社（西尾市）の狛犬を皮切りに、試行錯誤の末に岡崎

註6 同上



写真 18 福本神社（美作市福本）
石工・酒井孫兵衛
大正 13 年（1924）



「酒井孫兵衛」銘のある狛犬



乙川八幡社（愛知県半田市）



栗葉神社（愛知県半田市）

（写真提供：田中義人氏・田中智子氏）

愛知県半田市の狛犬



写真 20 西幸神社(美咲町西幸) 写真 21 高良神社(押入) 写真 22 八頭神社(桶屋町)
昭和 7 年(1932) 出雲型座形 昭和 14 年(1939) 岡崎型座形 写真 23 青柳神社(青柳)
平成 11 年(1999) 岡崎型座形 平成 13 年(2001) 岡崎型座形

石降銘のある狛犬と岡崎型狛犬

現代型の雄形を造りあげた。割り寸など、この狛犬の「制作マニュアル」を自分の弟子のみならず、広く岡崎の石工仲間に公開したため、あっという間にこのタイプの狛犬が広まったようである²⁷(註7)。「石匠酒井孫兵衛」は、8代目まで続いた愛知県岡崎市の石工である。寛政 13 年(1636)、3 代将軍家光が氏神である伊賀八幡宮の社殿大造営に伴い神橋の修理のため、攝津国から招かれ、後に渡り戦士として岡崎に住み着いたのが祖である。大正時代になると、岡崎市周辺でも狛犬の奉納が急激に増えた。

美作市福本の福本神社(賀茂大明神)には、大正 13 年(1924)に奉納された酒井孫兵衛の狛犬がある。年代や姿形から、6 代目~8 代目の作品であると思われる。この狛犬を寄進した岡崎市の水鳥傳助・せう夫婦の親戚筋の方が美作市に在住で、お話を伺うことができた。当時この二人は岡崎市で石材業を営んでおり、実家がこちらにあるという縁で狛犬と灯籠を寄進されたとのことである。貴重なお話を聞くことができ、感謝申し上げたい。酒井孫兵衛との関連については現在調査中である。

また、愛知県半田市の狛犬には、酒井孫兵衛の影響があると思われる狛犬が多く見られる。

出雲型から岡崎型へ

県北部地域の狛犬の中には、「石隆」の銘が入ったものが 6 対ある。美咲町西幸の西幸神社(写真 20)、津山市押入の高良神社(写真 21)、真庭市下若部の八幡
註7 たくみつよし『狛犬かがみ』バナナブックス 2006 年

神社、新見市豊永宇山の岩山神社、美作市豊国原の五座神社の狛犬にはすべて「石工石隆」と刻まれてある。この中では、西幸神社の来待石製の出雲型座形狛犬が昭和 7 年(1932)で最も古い。この狛犬以降、石隆の狛犬はすべて岡崎型に変わる。西幸神社の次に古いものが、押入の高良神社で昭和 14 年(1939)作である。昭和 7 年から昭和 14 年の 7 年の間に出来雲型から岡崎型へと変わっていたことがわかる。「石隆」は、現在も「石隆石材」として市内で営業されているので、関係者の方にお話を伺ったところ、昭和 7 年頃には岡崎市と流通があったということで、岡山県内でも早くに岡崎型狛犬を取り入れていたことが確認できた。また、美作周辺の狛犬を見ると、終戦前後から昭和 26 年までの狛犬と昭和 52 年以降の狛犬とでは、スタイルに若干の違いが見られる。前者の狛犬は、戦時下の時代背景から嚴つく威嚇するような姿形のものが多く似通った形をしているが専門的な職人を雇って手彫りで造られて



高田神社鳥居前の備前狛犬平成 8 年(1996) 当時
(写真提供: 岩本えり子氏)



八頭神社福荷宮（桶屋町）



近長の公園〔写真提供：奥卓真氏〕



近長の公園

尾道型狛犬

いたため、個々に違いが見られる。後者になると工場で造られたり、中国から輸入されたものになり、個体差がでにくくなってきてている。(写真 22・23)

備前焼狛犬

市内唯一の備前焼狛犬だった上横野の高田神社鳥居前の狛犬は、平成 17 年(2007)4 月頃、何者かによって盗難の被害にあった。今もその行方は杳として知れず、帰参が待たれる。平成 17 年 7 月には備前焼狛犬があった場所に岡崎型狛犬が奉納されている。

その他の狛犬

八頭神社の摂社福荷宮には、体長 20 センチのミニ狛犬が奉納されている。構形の姿勢で材質は砂岩であ

国土地盤図 1/10万図 第 45 号



図2 同 (1907 年～1938 年頃)

国土地盤図 1/10万図 第 45 号



図1 津山市内狛犬分布図 (1764 年～1900 年頃)

国土地盤図 1/10万図 第 45 号



図3 同 (1939 年～2007 年頃)

る。古いものかも知れないが時期の特定はできない。また、近長の公園には変わった形をした石造物がある。両方の口が開いた「阿－阿」型で、胸には環珞（ようらく）というベルト飾りがあり、中国獅子であることが判る¹¹⁸。設置された年代は不明である。

狛犬の分布

津山市内の狛犬の分布を年代別に図1から図3に示した。

図1は、1764年～1900年頃の津山市内の狛犬分布図である。これをみると、大阪の狛犬が市内全域に満遍なく所在していたことがわかる。そして、図2の1907年～1938年頃になると、狛犬奉納のピークは過ぎ、数が激減する。この時期は、大阪の狛犬・出雲型・尾道型が混在するが、大阪の狛犬に変わり、出雲型が一時増える。それから、図3の1939年～2007年頃になり再び狛犬奉納の機運が高まり、その時に入ってきた岡崎型狛犬が大半を占めるようになった状況が読み取れる。

まとめ

小稿では、津山市内に分布する主に4タイプの狛犬を紹介し、その変遷を追った。その結果、市内には大

註8 たくみつよし『狛犬かがみ』バナナブックス 2006年

番号	神社名	所在地	石工跡	西面型	東面型	使用・廃（cm）	頭圍	保存状況	変遷	見	材料
1・5	中山神社①	津山市一宮	栗原住石工 田代元治工	高さ 73.3cm 幅 64cm 厚 2.2cm	頭 約42cm 身 約42cm 脚 約42cm	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	花崗岩
2	八幡神社	津山市阿波	石工未明 里山石助	高さ 72.5cm 幅 7.2cm 厚 2.2cm	頭 約42cm 身 約42cm 脚 約42cm	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	花崗岩
3	八幡神社	津山市近島	大阪石工光石	高さ 86.6cm 幅 8.8cm 厚 2.2cm	頭 約41cm 身 約41cm 脚 約41cm	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	花崗岩
4	金刀比羅神社④	津山市加茂中原	石工 身側に標住 里山勝助	不明	高さ 69.0cm 幅 6.0cm 厚 2.0cm	頭 約60cm 身 約60cm 脚 約60cm	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	花崗岩
6	美作社社宮	津山市船社	不明	高さ 86.6cm (1854年)	頭 約9.1cm 幅 約9.1cm 厚 約9.1cm	頭 約6.3cm 身 約6.3cm 脚 約6.3cm	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	花崗岩
7	通守神社	津山市宮脇町	不明	高さ 明治40年 (1907年)	頭 約7.9cm 幅 約7.9cm 厚 約7.9cm	頭 約6.4cm 身 約6.4cm 脚 約6.4cm	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	花崗岩
8	田神社	津山市下田邑	津山市二宮石工 田代元治	高さ 昭和5年 (1930年)	頭 約7.7cm 幅 約7.7cm 厚 約7.7cm	頭 約6.1cm 身 約6.1cm 脚 約6.1cm	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	花崗岩
9	佐良神社	津山市一方	不明	高さ 昭和9年 (1934年)	頭 約8.6cm 幅 約8.6cm 厚 約8.6cm	頭 約7.7cm 身 約7.7cm 脚 約7.7cm	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	花崗岩
10	吉田神社	津山市神戸	津山市二宮工作 田代元治	高さ 昭和12年 (1937年)	頭 約78cm 幅 約78cm 厚 約78cm	頭 約78cm 身 約78cm 脚 約78cm	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	花崗岩
11	荒生神社	津山市荒生瀬	不明	高さ 昭和15年 (1940年)	頭 約59cm 幅 約59cm 厚 約59cm	頭 約44cm 身 約44cm 脚 約44cm	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	花崗岩
12	千賀神社	津山市加茂知和	不明	高さ 昭和10年 (1945年)	頭 約79.9cm 幅 約79.9cm 厚 約79.9cm	頭 約51cm 身 約51cm 脚 約51cm	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	花崗岩
13	御櫻神社	新庄村梨瀬	伯州石工文四郎	高さ 昭和16年 (1946年)	頭 約96cm 幅 約96cm 厚 約96cm	頭 約96cm 身 約96cm 脚 約96cm	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	花崗岩
14	美甘神社	真庭市美甘	不明	高さ 昭和31年 (1956年)	頭 約91cm 幅 約91cm 厚 約91cm	頭 約65cm 身 約65cm 脚 約65cm	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	花崗岩
15	大隅神社	津山市上之町	備後尾道市助 (市村定三郎)	高さ 昭和2年 (1956年)	頭 約13.3cm 幅 約12.8cm 厚 約12.8cm	頭 約7.6cm 身 約7.6cm 脚 約7.6cm	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	花崗岩
16	寛尾八幡神社	津山市寛尾	不明	高さ 昭和40年 (1967年)	頭 約5.5cm 幅 約5.5cm 厚 約5.5cm	頭 約7.6cm 身 約7.6cm 脚 約7.6cm	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	花崗岩
17	中山神社②	津山市一宮	不明	高さ 昭和44年 (1968年)	頭 約15.0cm 幅 約15.0cm 厚 約15.0cm	頭 約10.3cm 身 約10.3cm 脚 約10.3cm	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	花崗岩
18・19	福本神社	美作市福本	酒井孫兵衛	大正13年 (1924年)	頭 約89cm 幅 約89cm 厚 約89cm	頭 約76cm 身 約76cm 脚 約76cm	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	花崗岩
20	西幸神社	美咲町西幸	栗利	昭和7年 (1932年)	頭 約7.3cm 幅 約7.4cm 厚 約7.4cm	頭 約4.5cm 身 約4.6cm 脚 約4.6cm	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	花崗岩
21	高森神社	津山市高森	不明	昭和14年 (1939年)	頭 約7.0cm 幅 約7.0cm 厚 約7.0cm	頭 約4.8cm 身 約4.8cm 脚 約4.8cm	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	花崗岩
22	八幡神社	津山市幡屋町	不明	平成11年 (1999年)	頭 約7.0cm 幅 約7.0cm 厚 約7.0cm	頭 約54cm 身 約54cm 脚 約54cm	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	花崗岩
23	青柳神社	津山市青柳	不明	平成13年 (2001年)	頭 約6.6cm 幅 約6.6cm 厚 約6.6cm	頭 約4.4cm 身 約4.4cm 脚 約4.4cm	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	頭：不明 身：不明 脚：不明	花崗岩

本書掲載狛犬一覧表

阪・鳥根・広島・愛知4府県の狛犬が、入ってきていることが分った。そこから見えてきた狛犬の変遷は、「大阪の狛犬」から「尾道型」・「出雲型」となり、現在主流となっている「岡崎型」へと移り変わっていることが判明した。今後も調査を積み重ね、成果をより確実なものにしていきたいと考えている。

次回は、真庭市・鏡野町周辺で多くみられる出雲型狛犬の流れを追い、津山市の狛犬にどういった影響をもたらしたのかについて言及したい。

小稿を書くにあたって、倉敷埋蔵文化財センターの藤原好二氏には狛犬の形態などの基本的な見方からご教示いただいた。徳守神社では、狛犬を観察する機会を与えていただいた。石隆石材の方には岡崎型狛犬に関するお話を聞かせていただいた。美作市では、滝の宮神社の関係者にお世話になった。奥卓真氏、岩本えり子氏、田中義人・智子夫妻には写真を提供していただいた。また、津山市教育委員会文化財課の行田裕美、岩本えり子、近藤有紀、さらに兄の田潤智也には現地調査でお世話になった。

末筆ながら御礼申し上げます。

コロビ山の開発～安黒一枝の日記から（2）～

岩本えり子

はじめに

今回は、第2回目として、安黒一枝が手掛けた事業を、大正6年～昭和2年までの日記から、コロビ山の開発、行啓道路、山下、新開地、二隣町の開発、竹器工場、足袋会社に関する記述を取り上げる。以下、日記のページをめくっていいく。

コロビ山の開発

大正13年3月16日

昼食後椿高下小林君住宅建築を視察是より同君と同伴コロビ山北町を経て宮川、橋本町に迂回信託に鳥越君を訪問

大正14年1月11日

コロビ山開墾地処分に関する想談あり 11時帰莊

7月25日

夜に水鳥君来莊コロビ山分譲の件に付想談木村君を招致し石垣の設計を聽取

7月27日

コロビ山視察の件約す

9月10日

今朝よりコロビ山に整井工事着手第1第2回共不成功和田君と会合コロビ山開墾地取引方今村より当分此□協同処分進展努力すべき旨想談すべ置く

9月11日

朝コロビ山に出張第3回整井試掘不成功打□試掘はにて打切り方針変更の必要を認め普通井戸採掘方和田君へ委嘱

9月25日

朝8時銀行出頭頃取両常務小川君皆出張中にて不在山根村長來行院庄桜神社建築家附に関する件杉山君昨夕帰津ノ由出頭帰途コロビ山に迂回整井状況視察夜分今村君来莊郡は製糸株決算書入手

10月11日

午前コロビ山（井戸採掘）及三徳麦工場跡視察

10月16日

コロビ山第二井水質検査の結果遅過すれば飲料水に適する旨に付此儘にし掘鑿中止

10月27日

和田君來行コロビ山開墾地井戸の件及地ナラシ工事の件に付夕方山本君來莊同君經營の出社□所事業を株式組織にするに付発起者たるべく想談あり

11月3日

夜分昼間の約束に依りキリ屋に和田君を訪問コロビ山の件に付想談あり

11月15日

夕方コロビ山視察夜分土地会社帖簿整理

大正15年2月23日

コロビ山開墾地へ電柱建立の件想談

7月2日

和田君來莊コロビ山債務引受件に付想談あり

9月20日

和田君コロビ山開墾地引渡方想談

10月22日

高岡君來莊昼食後同君同伴コロビ山整地計画視察

10月31日

午後高岡君同伴コロビ山開墾地視察

11月23日

午後コロビ山埋立工事視察

12月5日

昼食後開墾地視察

大正16年（昭和元年）2月24日

夕方コロビ山埋立工事視察

3月21日

コロビ山より山下埋立地視察

4月10日

昼食後真木医師を訪ね不在依てコロビ山開墾地視察より鶴山城跡散歩山下の開墾を続けて夕刻帰莊

10月22日

朝池田棟梁を招きコロビ山新築の件想談

12月20日

夜分久山智政君來莊コロビ山土地譲渡の件 10時帰去

昭和2年1月11日

退行帰途コロビ山工事視察

1月22日

- 池田君來訪コロビ山借家に關し
- 2月 3日 退行帰途高井君同伴コロビ山借家工事視察□員人
池田君へ今般の工事に付指示
- 2月 18日 午後山口未亡人來莊コロビ山土地に関する件夕方
高岡君來莊コロビ山土地に関する件
- 3月 5日 久山智政君來莊銀行の件コロビ山土地の件懇談
11時辭去
- 3月 20日 朝池田棟梁來莊コロビ山新築決算に関する件
- 3月 26日 池田棟梁へコロビ山建築費決算をなす
- 5月 13日 コロビ山新築工程視察
- 5月 27日 夕食後コロビ山新聞地新築工事視察
- 8月 2日 夕食後押阪君同伴コロビ山散策
- 8月 17日 夕食後コロビ山新聞地新築工事散策
- 9月 9日 本日池田棟梁來訪コロビ山借家建築代勘定の件
4500円決定
- 9月 18日 夕食後コロビ山、新聞地散策
- 行啓道路新設
- 大正15年2月 4日 宮川君來莊津山警察署前日笠君所有土地に関する件
- 2月 28日 朝宮川日笠両君來莊警察署前の土地の件
- 3月 28日 日笠宮川の両君來莊警察署前田地土地会社引受整理の事調談3人同伴
現地に就き打合をなす
- 3月 30日 和田君來莊日笠田地開墾に付土取場の件に關し想談
- 4月 1日 夕方木村君來莊日笠田地開墾の件
- 4月 2日 朝木村君來莊日笠田地開墾の件和田君來行日笠田地開墾の話を委嘱
鳥越君來行山田君所有田地売買に関する件日笠和田高岡宮川の諸君參集を依頼し鶴山行啓道路設計に付町役場との交渉進展したため
日笠田地開墾契約確立の必要あり一切万事を津山土地会社へ一任して貰う事にして協議□の大工事に就いて一切和田君へ尽力□す事に委嘱2時散会
- 4月 6日 和田君來行日笠田地開墾行啓道路新設に付町役場との契約書に調印す
- 4月 7日 夜分高岡君來莊予て多胡君へ依頼の日笠田地開墾設計書なる和田君へ預けを依頼
- 4月12日 吉田助役來行日笠田地行啓道路新設に関する件
- 4月13日 町役場吉田技師來行行啓道路新設に關し
- 4月16日 朝行啓道路工事を視察 9時半銀行出頭
- 4月22日 行啓道路土手追拂
- 4月23日 朝日笠田地開墾土地視察し 9時半銀行出頭
- 4月24日 朝日笠田地工事場を□し
- 4月25日 同道工事視察の上キノゑに至り
- 4月26日 夕食後工事場視察の上キノゑに至り
- 4月27日 工事場視察の上 9時半銀行出頭
- 4月30日 朝工事場視察の上銀行出頭行啓道路□の□□
- 5月 1日 朝工事地場視察の上 9時過銀行出頭
- 5月11日 木村君來莊行啓道路□引メ後の石材を積載したる自動車を通して試験の結果正式に引渡完了
- 5月23日

朝晴天時々雨雲はれしも遂に不降本日自警當番にて事ム所へ一時間出頭 10時頃より山口君同伴行啓道路日笠君屋敷へ至り 12時半皇太子殿下の行啓を奉還す本日の人出□□十万と秤り鶴山館に成らせられ城山に御少憩中学校に行啓御出発 14時岡山へ御帰還あらせたる此日中山神社郡は製糸工場作樂神社浮田製糸工場へ侍□差遣せらる

二階町山下、新開地の開発

- 大正10年3月15日 夕方二階町辺迄散策
- 大正12年11月4日 山下住宅組合建築地散策
- 大正13年2月11日 山下住宅組合建築地散策
- 大正15年5月13日 北村君矢吹君未亡人同伴來行同君取引土地（二階町）売買渡済契約金として 3000円交付
- 5月19日 北村君より二階町土地に關し電話あり夜分市内散策
- 5月31日 関君立会の上二階町裏荒無地同千坪金 9000円迪にて買約調談代金ノ内金 2000円也相談す昼食后今関係者實地に立会視察
- 6月 3日 夜分北村君來莊二階町裏土地に關し高岡君來莊龍門君來莊 11時過帰去
- 6月13日 和田君來莊二階町裏開墾に関する件
- 7月 1日 二階町裏埋立の件に付協議に付帰莊
- 7月 8日 二階町裏工事場に立寄る
- 7月12日 途中二階町裏工事場に立寄り和田君と種々打合事項あり
- 7月16日 二階町工事場に立寄る石垣其他の件に付協議
- 7月18日 二階町工事場に立寄り銀行出頭本日より石垣築造開始
- 7月22日 朝高岡君來莊同伴二階町浦工事場視察ノ上□行
- 8月 1日 夕方二階町工事場視察風月に雜談
- 8月22日 二階町裏工事場及警察署前工事場散策
- 9月 5日 高岡君和田君同伴二階町裏道路布設予定経路視察
- 9月 7日 北村君來行二階町裏土地分譲の件（矢吹君希望）
- 9月18日 午後池田棟梁を招致し錦泉樓設計の件二階町裏長信屋建築の件堺町改築の件懇談
- 9月20日 和田君來行堺町山谷所有家屋買売想談あり
- 9月21日 和田君來行堺町新道路開拓二付補助金申請の件町役場へ交渉したる顛末懇談
- 10月30日 二階町裏埋立道路工事經過視察
- 11月26日 池田君來行堺町家屋移籍に件
- 大正16年（昭和元年）1月19日 朝高岡君二階町の裏井戸掘鑿の件
- 1月26日 朝真木君來莊二階町裏道路補修に関する件
- 1月28日 夕方和田高岡両君を松屋招致し二階町裏開墾工事終了に付慰労をなす
- 2月13日 朝高岡君來莊二階町裏土地の件
- 3月 1日 高岡君來莊二階町裏宅地の件
- 3月 6日 昼過高岡君來莊二階町裏土地売買の件
- 3月10日 二階町裏地□変換届を提出
- 3月11日 高岡今村両君二階町裏土地分譲の件
- 3月18日 朝黒崎來莊二階町土地買受申旨件男子校北側土地譲渡の件□□にて現地視察

- 3月30日 朝高岡君来莊山下土地の件
- 3月31日 夜分高岡君来莊山下土地の件
- 4月2日 朝高岡君来莊山下土地の件
- 4月3日 林君来莊山下土地商工会へ融通の件
- 4月10日 鶴山館に於ける明日より開催の□生展覧会視察山下の開懇を終て夕刻帰莊
- 5月7日 朝高岡君来莊新聞地売却の件
- 5月8日 新聞地一周
- 6月22日 朝8時半銀行出頭郵便局工務課より山下新聞地へ電柱建設の件交渉あり
- 昭和2年1月7日 朝高山宇一郎君来莊新聞地土地分譲の件
- 1月8日 高岡君来莊二階町土地分譲の件（永田免吉）
- 2月12日 竹内君来莊新聞地焼失家屋に付
- 2月14日 朝高岡君来莊新聞地土地に関する件
- 2月21日 北村君來訪新聞地土地に関する件
- 3月2日 夕方高岡君来莊新聞地売約土地分割の件二付土地会社決算事ム二付夜半4時迄執務
- 4月22日 新聞地建築経過視察
- 5月27日 夕食後新聞地新築工事視察
- 8月17日 夕食後新聞地散策
- 9月18日 夕食後新聞地散策
- 11月4日 新聞地散策
- 11月11日 昼食後高岡君同伴新聞地高山写真館にて御大典記念のため撮影
- 竹器工場
- 大正6年5月17日 夕方鉄砲町竹細工を視察
- 6月6日 夕食後鉄砲町竹細工職場へ趣起細工要領聽取10時半帰莊
- 10月19日 鉄砲町竹細工屋へ立寄り籠材料仕上げの件二付想談
- 10月21日 菅賀一郎君竹細工の件二付來訪同伴鉄砲町に至り見学
- 11月6日 夕方三船君大坂竹細工ヤ同伴來莊
大正8年5月21日 鉄砲町竹細工作業の件相談、本日より従事する事にする
- 5月24日 朝那波和尚三男同伴來莊竹細工修業希望の由二付同道鉄砲町に趣起視察明日より同へ出張修業の事に取極む
- 8月18日 鉄砲町竹細工工場地視察序に南新座売家視察
- 9月14日 夕方鉄砲町細工工場視察
- 10月4日 夕方鉄砲町竹器工場を視察
- 10月9日 静岡より見本カゴ送り来る
- 10月24日 竹器工□□の事想談
- 10月27日 木村君と船頭町竹細工場候補地視察
- 11月3日 夕方西今町竹器工場敷地候補地視察鉄砲町に至り帰莊
- 11月9日 夕方鉄砲町竹器工場視察

11月10日	来莊
朝木村君来莊静岡の籠職人来津セリ迪	
11月27日	8月11日
鉄砲町竹器工場視察	夕方三船水谷両君来莊竹の経営上に付想談
12月9日	8月12日
鉄砲町竹器工場視察	豈前山田君訪問竹の工場出資金3000円受取是にて会計金5000円となる
12月14日	8月19日
鉄砲町竹器工場視察	夜分鉄砲町中村工場視察
2月25日	8月20日
町役場小枝君來行竹器見本の件二付	夕方竹器工場視察
3月8日	9月1日
た町竹器工場工程視察	朝竹細工職人鈴木君來訪橋本を招致し工場經營上に付打合
3月17日	9月6日
夜分木村久山□□來莊3丁め竹器店改造設計を成す竹器講習場視察	夕方鉄砲町中村工場視察
3月18日	9月13日
夕方鉄砲町竹器工場視察	安岡町鈴木工場及西寺町工場視察
3月20日	9月14日
小林君とキノ糸に会食共に寺町竹器工場の工程視察（水島同伴）次て 鉄砲町に立寄り	竹器視察の途に上る筈
3月22日	9月18日
木多君同伴橋本大助竹器工場視察	竹器工場に立寄り赤松君へセン借入の件交渉同時原料□買入の件二付
4月6日	9月23日
竹器工場視察	本日より本家木□屋に於いて竹細工作業開始鈴木橋本等木村君本
5月18日	多君と竹細工視察のために静岡□□の件想談
夕方山岡君と竹器工場視察	10月4日
6月6日	竹器工場に寄る
昼小林君來店相伴れて竹器工場視察	10月9日
7月4日	夜5時半静岡着大東館に投ず
竹器工場視察	10月10日
7月18日	陳列館見物
筆保中村両君と竹器工場同伴視察	10月11日
7月15日	柳原君來訪竹器界に於ける大勢聽取象箱入広告□持參同君の案内
竹器工場視察に関する件	にて象箱工場及製□工場視察
7月16日	10月12日
朝山口至一君來莊同伴して竹器工場視察	竹器店視察夜7時30分京都付着
8月2日	10月13日
竹器工場に立寄り	8時起床朝食后木村君と竹器商森田□□□君を訪問竹器に関する件
8月10日	
夜分赤松君來莊竹の経営上に付想談木村小林両君	

- る体般の意見聴取
- 10月 14日 夕方又電車にて三の宮着竹器貿易商奥村君訪問
(夜9時) 竹器界
- の状況視察が津
- 10月 15日 朝奥村君宅に至り竹器見本観覧
- 10月 16日 夜分三船君來訪竹器工場経営上の方針二付想談
- 10月 19日 夕方鈴木工場及三船工場視察
- 11月 24日 鈴木君來莊竹器製造に関し想談
- 11月 25日 朝食後竹器工場訪問営業上の件に就き打合
- 12月 4日 朝龍師(空白)來莊竹器製造に関し想談
- 12月 8日 竹の伝習生の件
- 大正10年 1月 29日 鈴木來莊竹器製造に就苦□□
- 1月 30日 午後三船君來莊竹器経営に就き想談
- 2月 5日 竹器其他の件想談
- 2月 28日 竹器工場へ貸付 (50円□□)
- 3月 11日 本朝竹器工場より注文の分□ 100円資す
- 3月 12日 夜分三船君來訪竹器予算書作成を嘱□
- 3月 28日 竹器経営上に付三船君の態度に就き想談
- 4月 14日 3時相伴れ鉄砲町工場視察
- 4月 22日 午后竹器工場に趣起鉄砲町を迂回
- 4月 30日 赤松君來莊竹器の件に付想談
- 6月 3日 昼三船妻君來莊竹器工場勘定に付先月分不足 120 円□
- 帰途竹器工場に立寄り諸般の事務視察
- 6月 18日 夕方帰庄夜分竹器工場
- 6月 23日 11時頃竹器工場に趣く
- 6月 29日 昼竹器工場を訪問次て鉄砲町工場を視察
- 7月 3日 昼前竹器工場出頭中村工場を□て帰る
- 7月 18日 昼食後鳥越君と竹器工場視察
- 8月 9日 頃安君來莊竹器の件想談
- 9月 3日 鉄砲町竹器工場視察
- 9月 9日 帰途竹器工場に立寄る
- 9月 15日 鉄砲町中村工場視察
- 11月 2日 鳥越君來莊相伴れて寺町竹器工場に至り次て鉄砲町工場に趣起竹籠 160 個の見本拵るを注文
- 11月 4日 昼食後鉄砲町に中村工場訪問鳥越君注文の竹器工場視察
- 11月 18日 三船より工場職人退去の顛末を聞く工場引継書受取
- 11月 24日 昼食後木多君同伴寺町竹器工場に趣起在庫品及□他の器具一切の引継を成す (三船不在) 鉄砲町二工場視察
- 11月 28日 朝津山銀行に閑君訪問竹器経営上に付想談
- 12月 3日 木村君來莊三船君工場帖簿の引渡をなさず
- 12月 4日 本日本多君竹器工場の□付を成す夕方立会い新工場に貸与すべきもの、区分をなす
- 12月 7日 午後泉州刑事來莊竹器工場帖簿引渡尽力を依頼夕方小林君來莊

竹器工場売談成立セル旨	11月11日
12月 8日 竹器工場売却に付引渡しに付想談午後引渡しを了し金 3500 円受渡小林君 当座へ入金	竹器商会歴訪 11月13日 午前 9時検事局の招命により出頭□井検事により 竹器職人中川渉ノ身上に關し山口裁判所ヨリ照会□ □に付調査を受け木村水谷橋本の諸君同様出頭
12月11日 朝木村君來訪竹器に関し	12月13日 木山及落合二ヶ所に竹器販売店を紹介してくれる 大正12年 1月17日
12月28日 昼過木村君大阪大□君同伴來莊竹器取引上の件想談	竹器工場出資金問題に想談予て差入れある借入金 證書問題の顛末を請求) 竹器工場共同出資なる事諒解を求め□事情徹底したる様子に付先方の要求に□い同工場共同出資を承認する事に同意を得□之を実行する事を契約す
大正11年 1月 5日 竹器、販売の件二付想談早速 200 余円の注文あり しも木村君岡山へ趣起たり通	2月 4日 朝食後鉄砲町竹器工場視察
1月11日 山根村長の紹介により竹器製作に付希望ありとの事に付同工場視察 察途中木村君に会追又、中山工場に至り想談	大正15年 8月19日 竹細工同業組合組織に関する件
1月23日 鉄砲町竹器工場視察	足袋会社 大正9年 3月 7日
2月19日 昼過ぎより竹器工場視察	夕方谷口君來莊足袋製造会社重役の件社長山田君 専務木村君取締笠原神田大谷監査森本片山谷口
2月25日 竹器に関する件想談	3月 8日 朝食後安岡山田君訪問足袋製造会社創立に付持株の事及代表たる事の承認を受く
4月24日 県庁技手来行竹器經營上の件二付想談	3月11日 足袋製造会社の件
6月19日 昼迄竹器に関し想談	3月25日 夕方福田ヤに山田木村(足袋) 谷口の三君と会合 足袋高原ヤ豊福の件に付協議
6月26日 木村君來莊竹器販売上の件	大正10年 2月23日 終日籠城夕方より裏座敷に於いて足袋会社重役会開催神田笠原谷口山田君より提出の取締役辞任の件 臨時総会招集請求の件附議 12時過散会
7月30日 昼食後鉄砲町竹器工場視察	4月 4日 昼足袋会社の木村君來莊株件受取
8月31日 朝食後鉄砲町竹器工場視察	4月25日 昼食後足袋会社に出頭配当金受取
9月23日 竹器商会へ趣きたるも木村君不在	10月15日 足袋会社重役問題に付想談
10月 1日 朝食後鉄砲町中村工場に趣起	大正12年 4月 7日
10月16日 竹器職人の件に付由来聽取さる	
10月17日 竹器工場職人問題に付次席警部に成行陳情調書へ 検印	

足袋会社木村君神田谷口両君來訪及□□改選足袋会社決算に關し懇談
12月19日 足袋会社木村君來莊年末經營難に付金融の件
12月29日 足袋会社木村君來莊金融の件
大正13年3月2日 足袋会社の件懇談
4月26日 夜分足袋会社木村君來莊今会社第5期決算書報告あり明日の総会に關し及会社の処置方に付12時経過懇談
6月15日 昼後津山足袋会社役員会協議会出席神田笠原本村谷口等の諸君出席会社将来の方針に付協議種々研究の結果解散整理の事に衆議一致これにて夕食
7月25日 11時頃より車上東新町津山足袋会社に出頭笠原神田森の諸君出席この解散問題に付協議
9月1日 竹器尻に關し山田君交渉調停方を依頼
9月4日 竹器出資金問題に付懇談同伴共益会社に鳥越君訪問委細懇談を依頼し銀行出頭
大正14年1月25日 津山足袋会社清算総会朝木村君(□□郎□)君來莊ツ山足袋会社清算上に關し総会欠席の旨同君を通して通告
10月29日 足袋会社総会に関する件
大正15年2月6日 鳥越君來行竹工共同經營□の件に付懇談此件1500円也を一時交付し5000円この証書取戻方協□成立せんー□する事にする
まとめ
以上、大正8年から昭和2年まで安黒が手掛けた事業の一部について紹介した。

コロビ山とは何處にあった山なのだろうか。

大正13年3月16日、椿高下からコロビ山、北町、宮川、橋本町へと迂回ある。大正16(昭和元年)4月10日、田町の真木歯科からコロビ山、鶴山城の裏から表に迂回し、山下に散策している。また、津山出身の哲学者、出隆の著作集第6巻「哲学者の手記」の中に「6月8日ころび山の下の草原で、農家の子供の草を喰わせている牛を、子供に教わって、歩かせたり止めたりする。

牛追い、気晴らしなり、ごまかしなり、夕方、井戸と天神橋まで散歩」とあり、コロビ山が登場する。出隆はよく上之町の実家から鶴山城を通って田町を往復していた。

これらの事から、コロビ山は現在の津山文化センター南西側駐車場から田町東側一帯にかけて(行啓道路北側)の丘陵と考えられる。山というより丘と呼ぶ方がいいのかも知れない。現在では当時の姿を想像することはできない。昭和2年以降もコロビ山の開発は続行する。

行啓道路は、大正15年5月23日の皇太子殿下行啓のために敷設された。土地設計の話は、大正15年4月2日に突然記述が始まるが、それ以前の大正15年2月4日から日笠田地開墾の話の中で計画が進められたものと推察される。

山下、二階町、新聞地の開発は、行啓道路新設を切掛けに、大正15年から開発が進んでいく。

城の堀も埋め立てられた。この間の事情については、大正15年7月16日、石垣についての協議、7月20日の石垣築造開始の記述しかなく、詳しいことは不明である。土地開発は何ヶ所も重なり合いながら進んで行った。

竹器工場は、鉄砲町、安岡町、西寺町、田町、東新町にあった。静岡からの龍職人を呼び寄せているが、その職人が刑事事件を起こしている。以後、昭和5年、竹工組合創立へと繋がる。

足袋会社は、大正9年から大正14年まで経営された。この他にも安黒がかかわった事業は、次のように多岐にわたる。

日の丸米肥会社・宮川味噌醸造・三徳麦販売・郡是製糸・高尾酒造会社・敷島瓦・中国蠶糸・美作薪炭会社・津山土地会社・大槻信用組合・新見大理石・敷島自動車・山陽信託会社・備作製金会社・廣福製紙会社・

神戸芦屋土地埋立及護岸工事・六甲越有馬電気鉄道・牧酒造・加茂酒造・中国信託・曙路辺工事・堺町新道路開拓・山下住宅組合・林野木材会社・競馬場設置・煉瓦製造・奥津定期自動車・奥津錦泉樓再興・不動産売買（今町・美濃職人町・堺町・京町・田町警察署前埋立・今津屋橋畔・福岡村・川辺・高野・阿波山林・讃本田地・上横野山林・梶並山林・広島山林・那岐山林・因幡山林・西大寺家屋・尼崎・熱海）・人工真珠・人工金・電燈布設運動等。

これらの会合、懇談は、おもに對鶴樓（福田屋）で行われているが、キノゑ、風月、福富、大津樓、曙等も利用されている。

翻刻にも大分慣れ、毎日の日記をめくっていくと事業内容の多さに驚かされる。その当時の様子が、目前で起こっているような錯覚になる。小稿を記すにあたっては佐野綱由、行田裕美的両氏にはご助言をいただきました。末筆ではありますが御礼を申し上げます。



大正時代の行啓道路（西から）



大正時代のコロビ山（北から）



現在の行啓道路（同上）



現在のコロビ山（同上）

印 刷 仕 様

紙 質 表紙 レザッククリーム 175kg
本文 ニューエイジ 90kg
D T P O S Windows 7 Ultimate
DTP Adobe Indesign CS4
図版作成 Adobe Illustrator CS4
写真調整 Adobe Photoshop CS4
Scanning 35mm・6×7film EPSON GT-X 970
画面類 GRAPHTEC IMAGESCANNER TS7000
使用 Font モリサワ OpenType 基本 7 書体 (じゅん Pro、リュウミン Pro-L-KL、見出ゴ
MB31Pro、見出ミン MA31Pro、太ゴB 101Pro、太ミン A101Pro、中ゴシ
ック BBBPro)
画像原稿 階調画像線数は 175 線
印 刷 印刷所へは、P D F X - 1a (2001) で書き出して入稿

年報 津山弥生の里 第17号 (平成20年度)

2010年3月25日発行

発行 津山市教育委員会

文化財課

〒 708-0824

岡山県津山市沼 600-1

TEL.0868-24-8413 FAX.0868-24-8414

印刷 二葉印刷(有)

